Panasonic

音声ファイル管理ソフト

Voice Editing Ver.1.0

Professional Edition
Mobile Edition
取扱説明書

Panasonic

Voice Editing

Ver.1.0

Copyright © Matsushita Electric Industrial Co., Ltd. 2004 - 2005

このたびはお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

■ この取扱説明書と機器本体の取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。

- Windows の基本操作やコンピューター、周辺機器の取り扱いについては、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

MSC0110AD_J_YA

こんなことができます

ICレコーダーやSDメモリーカードに記録した音声ファイルをパソコンに取り込み、音声ファイルの管理、再生などを行うことができます。

Ⓐ 転送する／保存する

音声ファイル単位、サブフォルダー単位で、ハードディスクなどに保存します。ICレコーダーやSDメモリーカードなどに転送することもできます。

Ⓑ 音声ファイルを編集する

パソコン上で順番を変えたり、削除したりできるほか、音声ファイルやサブフォルダーのタイトルの変更などができます。また、音声の波形を見ながらの編集もできます。

Ⓒ 検索する

カレンダー機能を使って録音日時をもとに音声ファイルを検索することができます。

Ⓓ 文字に変換する

音声を文字に変換することや、音声ファイルをテキスト文書に変換することができます。

Ⓔ 文章を読み上げる

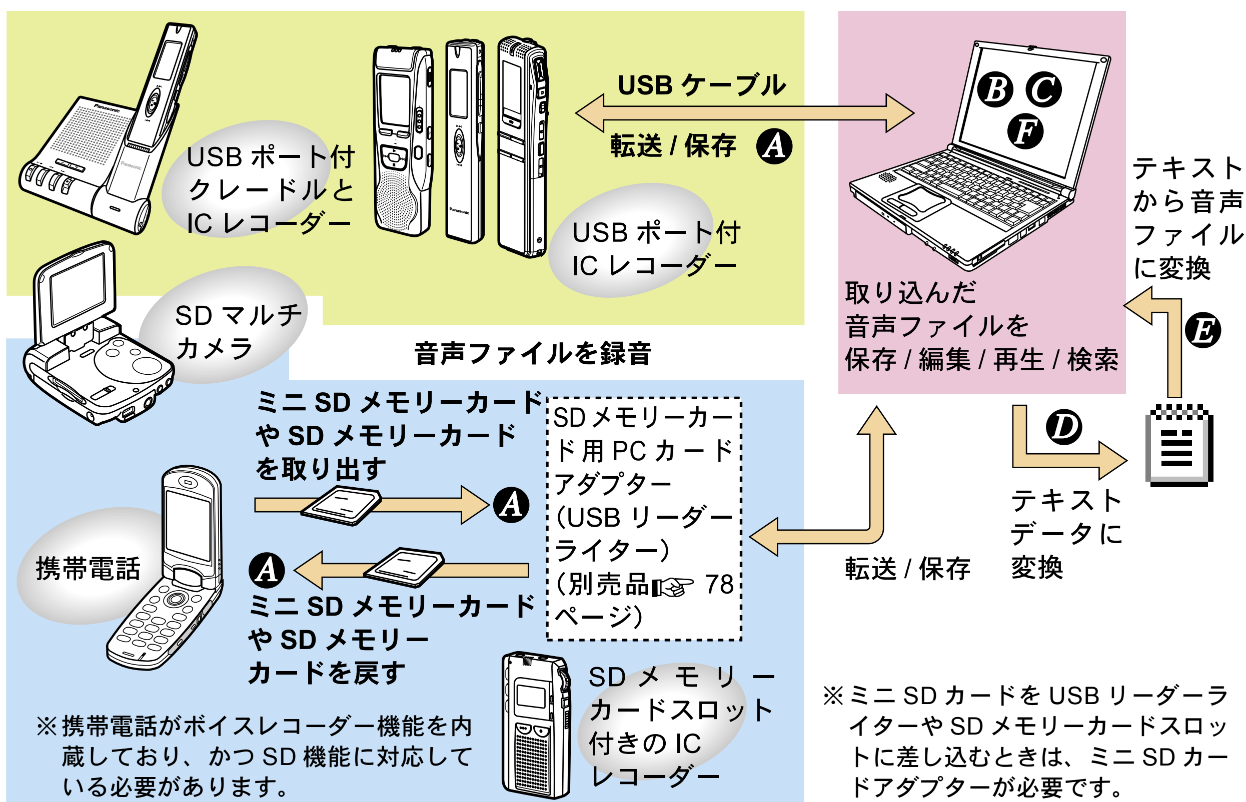
テキスト文書の読み上げや、テキスト文書を音声ファイルに変換することもできます。

Ⓕ 録音する

さまざまな音源から再生される音の録音ができます。

Ⓖ CD書き込み

Windows XPでお使いの場合、CD-R/RWにバックアップができます。



※Voice Editingは、Voice Studio/SD Voice Editor/Voice Editor 2/Voice Editor 3の上位バージョンです。

もくじ

お使いになる前に

すぐ使う

さらに使いこなす

必要なときに

必要なシステム構成

Voice Editing Ver. 1.0 Professional Edition/Mobile Edition をお使いいただくためには、以下のような性能を満たしたパソコンが必要です。

■ 対応パソコン：下記対応の OS がプリインストールされた IBM PC/AT またはその互換機

- NEC PC- 98 シリーズとその互換機では動作保証しません。
- Macintosh には対応していません。

■ OS：Microsoft® Windows® 98 Second Edition（以降、「Windows® 98SE」と記載します。）
Microsoft® Windows® Millennium Edition（以降、「Windows® Me」と記載します。）
Microsoft® Windows® 2000 Professional ※（以降、「Windows® 2000」と記載します。）
Microsoft® Windows® XP Home Edition/Professional ※（以降、「Windows® XP」と記載します。）

※ Windows® 2000、Windows® XP では、管理者の権限を持つユーザー（Administrator）で使用できます。マルチユーザーには対応していません。

- Windows® 3.1、Windows® 95、Windows® 98 (Windows® 98SE を除く）および Windows NT® には対応していません。
- OS のアップグレード環境での動作は保証しません。

■ ハードウェア

- CPU ：Windows® 98 SE 、Windows® Me ：Intel® Pentium® II 333 MHz 以上
  Windows® 2000 、Windows® XP ：Intel® Pentium® III 500 MHz 以上
- RAM ：Windows® 98 SE 、Windows® Me ：128 MB 以上
  Windows® 2000 、Windows® XP ：256 MB 以上
- ハードディスク ：100 MB 以上の空き容量
  - Windows® のバージョンや音声ファイルにより、別途空き容量が必要です。
  - Acrobat® Reader®（付属）をインストールする場合、別途約 25 M B の空き容量が必要です。
  - DirectX® 9.0c（付属）をインストールする場合、別途約 50 MB の空き容量が必要です。
  - 音声認識エンジン（付属）をインストールする場合、 1 言語につき、別途約 45MB ～ 60MB の空き容量が必要です。
  - 音声合成エンジン（付属）をインストールする場合、 1 言語につき、別途約 40MB ～ 100MB の空き容量が必要です。
  - 音声波形表示機能、音声認識機能、音声合成機能、サウンドレコーダー機能、CD-R 書き込み機能 (Windows® XP のみ）を使用する場合、一時領域として別途空き容量が必要です。
- ドライブ ：CD-ROM ドライブ（インストールに必要）
  CD-R/RW ドライブ（Windows® XP で、CD-R 書き込み機能を使用する場合に必要）
- サウンド ：Windows 互換サウンドデバイス
- ディスプレイ ：High Color（16 bit）以上　デスクトップ領域 800 × 600 以上（1024 × 768 以上を推奨）
- インターフェース：USB ポート（USB ハブおよび USB 延長ケーブルで接続した場合は、動作を保証しません）
- その他 ：マウスまたはマウスと同等のポインティングデバイス

次ページへ続く ▶

必要なシステム構成

お知らせ

- ハードウェアの環境について、以下のご注意があります。
  - マルチ CPU 環境 には対応していません。
  - マルチブート環境 には対応していません。
  - 64 ビットパソコンでの動作は保証していません。
  - 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
  - お客様が自作されたパソコンについては動作保証いたしません。
- 音声認識エンジン、音声合成エンジンについて、以下のご注意があります。
  - 音声認識エンジン、音声合成エンジンは、OS がインストールされているドライブ（通常は C ドライブ）にインストールされます。
  - 音声認識エンジン、音声合成エンジンを動作させるには、OS がそのエンジンの言語をサポートしている必要があります。
  - 日本語の音声認識エンジンは、日本語 OS のみで使用できます。
  - 中国語の音声認識エンジンは、中国語 OS のみで使用できます。

必要なソフトウェア

DirectX® 8.1 以降／ Internet Explorer 5.5 以降

お知らせ

- Voice Editing Ver. 1.0 と下記のシステムを同じパソコンにインストールしてご使用になることはできません。あらかじめアンインストールしてから Voice Editing Ver. 1.0 をインストールしてください。
  - Voice Editor 3　- Voice Editor 2　- Voice Editor 2 for H"
  - Voice Studio Ver.2.0　- Voice Studio Ver.1.0
  - SD Voice Editor Ver. 1. x
- 以前のバージョンで作成した音声ファイルは、アンインストールを行っても削除されませんので引き続き使えます。ただし、安全の為にバックアップを取っておくことをお勧めします。

扱える音声ファイルの形式

Professional Edition と Mobile Edition で扱える音声ファイルには、以下の違いがあります。

	TRC	ADPCM2	G.726	WAVE
Professional Edition	○	○	○	○
Mobile Edition	×	○	○	○

VM1 形式ファイル

■ Panasonic IC レコーダー（RR-US090/070/050）で録音される音声データ

圧縮形式　：ステレオ TRC/ モノラル TRC
Voice Editing Ver.1.0 でのアイコン：（TRC コーデックマーク）
録音モード　：HQ（ハイクオリティ）、FQ（ファインクオリティ）、SP（スタンダードプレイ）
※ステレオ録音した音声ファイルには、「ステレオ」欄に が表示されます。
「メモ」フォルダー内の音声ファイルは「HQ」モードのみです。

ステレオ TRC/ モノラル TRC	フォルダー数制限	ファイル数制限
メモリー内臓タイプ IC レコーダー	001 ～ 005（固定）	001 ～ 099

■ Panasonic IC レコーダー（RR-US530/630）で録音される音声データ

圧縮形式　：モノラル TRC
Voice Editing Ver.1.0 でのアイコン：（TRC コーデックマーク）
録音モード　：HQ（ハイクオリティ）、FQ（ファインクオリティ）、SP（スタンダードプレイ）
※「メモ」フォルダー内の音声ファイルは「HQ」モードのみです。

モノラル TRC	フォルダー数制限	ファイル数制限
メモリー内臓タイプ IC レコーダー	001 ～ 005（固定）	001 ～ 099

■ Panasonic IC レコーダー（RR-XR320/330、RR-US007/009/520/620）で録音される音声データ

圧縮形式　：ADPCM2
Voice Editing Ver.1.0 でのアイコン：（IC レコーダーマーク）
録音モード　：HQ（ハイクオリティ）、SP（スタンダードプレイ）、LP（ロングプレイ）

ADPCM2	フォルダー数制限	ファイル数制限
メモリー内蔵タイプ IC レコーダー	001 ～ 004（固定）	001 ～ 099
SD メモリーカード（IC レコーダーに装着時）	001 ～ 009	

■ 携帯電話、ビデオカメラで録音される音声データ

圧縮形式　：G.726
Voice Editing Ver.1.0 でのアイコン：（携帯電話／ビデオカメラマーク）
録音モード　：SP（スタンダードプレイ）、LP（ロングプレイ）
※「LP」モードは、携帯電話のみです。

G.726	フォルダー数制限	ファイル数制限
	001 ～ 999	001 ～ 999

音声ファイルは 8 分 24 秒ごとに分割されて保存されます。8 分 24 秒を越える音声ファイルがある場合は、1 フォルダーあたりの保存できるファイル数が 999 個より少なくなります。（☞ 65 ページ「SD_VOICE フォルダーと音声ファイル」）

次ページへ続く ▶

扱える音声ファイルの形式

お知らせ

- 各音声ファイルの録音モードは音声ファイル一覧の「モード」欄に表示されます。
- SD メモリーカードスロット付き IC レコーダーをお使いの場合、Voice Editing Ver.1.0 では、SD メモリーカード上の、（IC レコーダー）アイコンのフォルダーをご使用ください。
- VM1 形式ファイルは音声データを圧縮しているため、WAVE データよりも少ない容量で保存することができます。
- で示される音声ファイルは、保存、再生、編集など操作はできません。（☞ 26 ページ「音声ファイルを編集する」）
- Voice Editing Ver.1.0 の「Moblie Edition」では、TRC 圧縮形式の音声ファイルは扱えません。
  で表示されます。
  また、ステレオ録音の VM1 形式ファイルには対応していません。
- ハードディスク、リムーバブルディスクでのフォルダー数制限は 001 ～ 999、ファイル数制限は 001 ～ 999 です。

WAVE 形式ファイル

Voice Editing Ver.1.0 で「WAVE → VM1」または「VM1 → WAVE」に変換することができます。
（☞ 23 ページ「変換する」）
「VM1 → WAVE」変換時の初期ファイル名は、
［番号］＋［タイトル名］＋［録音日時］.WAV　です。
ファイル名　拡張子
「WAVE → VM1」変換時の初期タイトル名は、WAVE 形式ファイルのファイル名です。

お知らせ

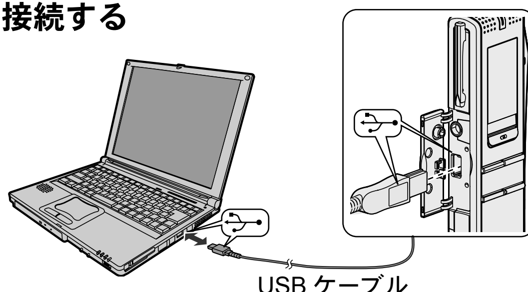
ステレオ録音の WAVE 形式ファイルも扱えます。

起動と終了

起動する

❶ **Windows を起動する**

❷ **IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続する**



お知らせ

- SD メモリーカードを使う場合は、USB リーダーライターまたは PC カードアダプターに SD メモリーカードを差し込み、パソコンと接続してください。
- Voice Editing Ver.1.0 は、2 台以上の IC レコーダーの同時使用に対応していません。2 台以上の IC レコーダーを同時に接続しないでください。
- IC レコーダーや USB リーダーライターは Voice Editing ではドライブとして認識されます。IC レコーダーは Windows 上ではドライブとして認識されません。

❸ **デスクトップの アイコンを ダブルクリックする**

Voice Editing が起動し、初期画面が表示されたあと、〈ドライブ選択ダイアログ〉画面が表示されます。

お知らせ

デスクトップにアイコンが表示されていない場合「スタート」メニューから［すべてのプログラム］→［Voice Editing］→［Voice Editing］を順に選びます。

<起動画面>



※ Professional Edition の場合

❹ **任意のドライブを選び、 OK をクリックする**

確認の画面が表示されます。

❺ **［はい］ボタンをクリックする**

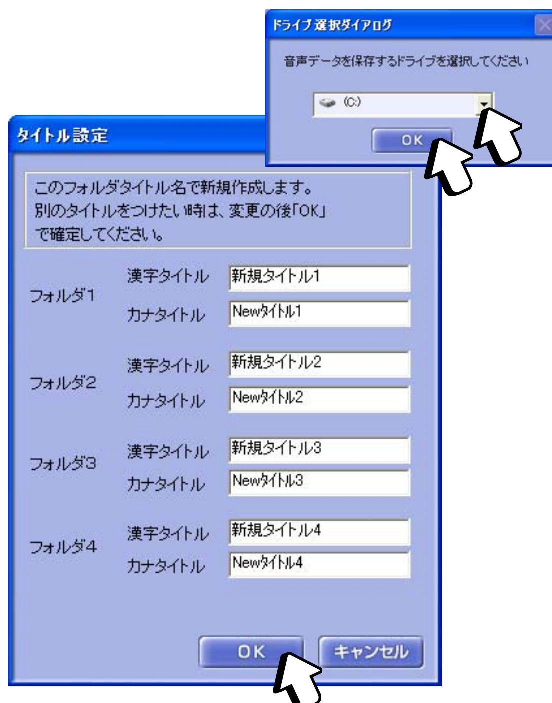
〈タイトル設定〉画面が表示されます。

❻ **サブフォルダーのタイトルを決める**

- 4 個のサブフォルダーが作成できます。
- カナタイトル（半角）と漢字タイトル（全角）の 2 種類のタイトルをつけることができます。（☞ 35 ページ「タイトルの表示」）
- フォルダータイトルは、後で変更できます。

❼ **OK をクリックする**

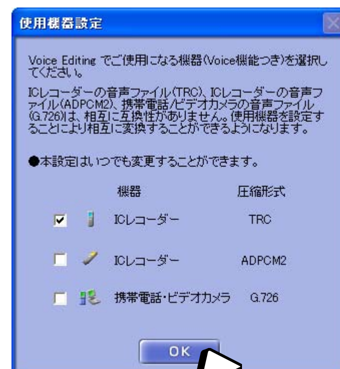
〈使用機器設定〉画面が表示されます。



次ページへ続く ▶

❽ 使用する機器を選ぶ

お使いの機器（圧縮形式）に「✔」を付けてください。



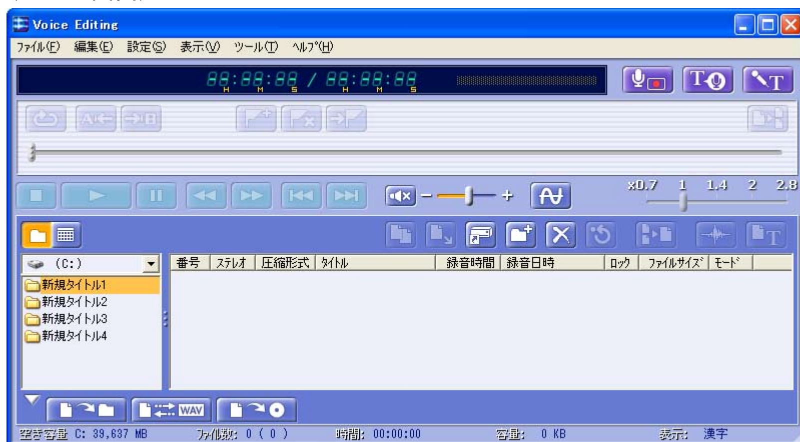
❾ OK をクリックする

〈メイン画面〉が表示されます。

お知らせ

2 回目以降は、Voice Editing をダブルクリックすると、〈メイン画面〉が表示されます。

〈メイン画面〉

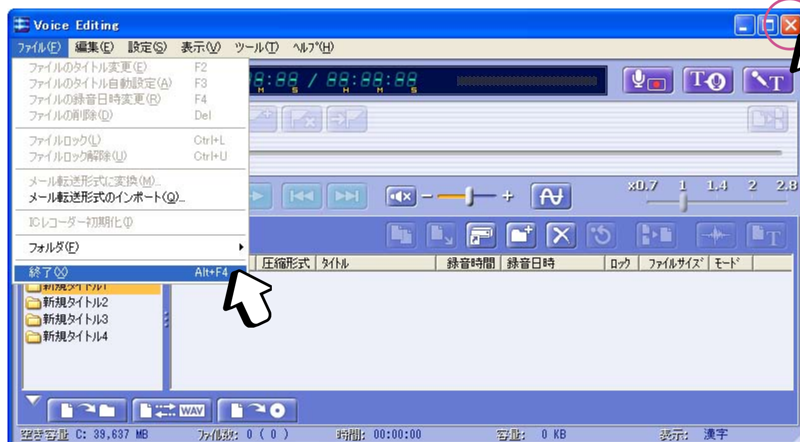


お知らせ

- Windows の画面の設定が「特大フォント」になっていると、〈メイン画面〉の表示が上の通りにならないことがありますので「標準」フォントに変更することをおすすめします。（操作の方法は Windows の取扱説明書をご覧ください）
- 〈メイン画面〉下の［ボタン］は、CD-R/RW ドライブを接続している Windows XP をお使いになっている場合のみ、表示されます。
- 「Mobile Edition」をお使いの場合、〈使用機器設定〉画面で「TRC」の圧縮形式は選べません。
  また、「ステレオ」欄は表示されません。

終了する

画面右上の ☒ を
クリックする
または
「ファイル」メニュー
から［終了］を選ぶ



転送（保存）する

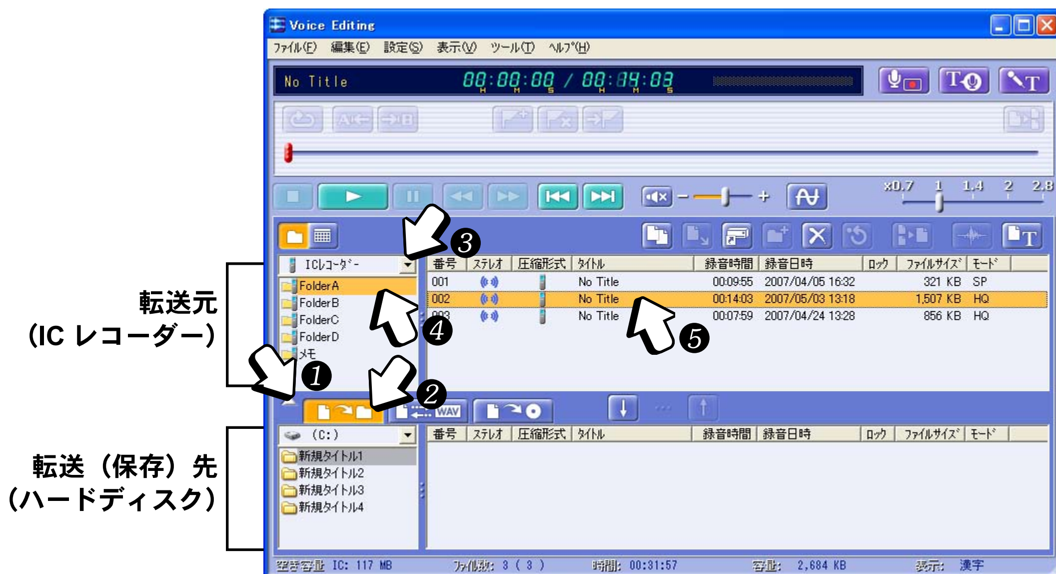
音声ファイルとサブフォルダーは一定の形式、名前、構造で保存されます。
（☞ 65 ページ「フォルダー構造」）

お知らせ

使用機器設定で、複数の機器を選んだ場合、転送（保存）時に圧縮形式を変換することができますが、圧縮形式を変換せずに転送（保存）することをお勧めします。（☞ 63 ページ「使用機器の選択」）

パソコンへの転送（保存）

IC レコーダー、SD メモリーカード内の VM1 形式の音声ファイルを、パソコンのハードディスクへ転送（保存）することができます。
複数のハードディスクドライブがある場合は､別のハードディスクドライブにも転送（保存）できます。



❶ をクリックする

に変わり、下のウィンドウが開きます。

❷ をクリックする

❸ 上のウィンドウで転送元のドライブを選ぶ

❹ サブフォルダーを選ぶ

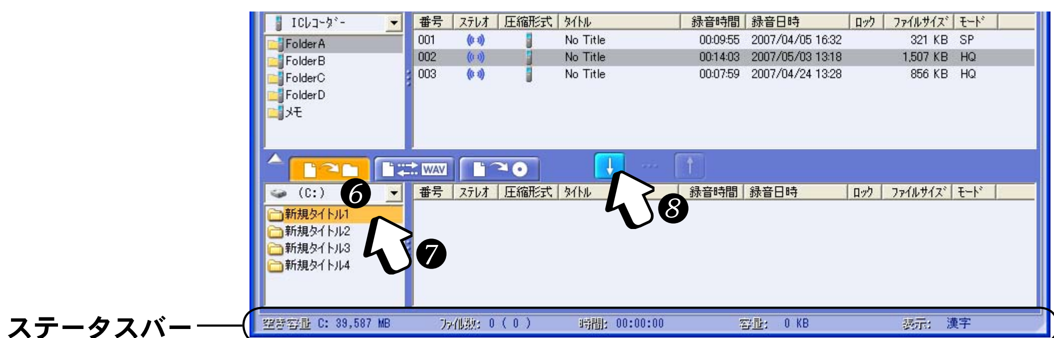
❺ 転送（保存）したい音声ファイルを選ぶ

■ 複数の音声ファイルを同時に選ぶには

- 連続する場合：最初の音声ファイルでクリック、[Shift]キーを押しながら最後の音声ファイルをクリックする
- 離れた位置の場合：[Ctrl]キーを押しながら音声ファイルをクリックする

次ページへ続く ▶

もくじへ



❻ 下のウィンドウで転送（保存）先のドライブを選ぶ

選んだドライブの空き容量がステータスバーに表示されます。

❼ サブフォルダーを選ぶ

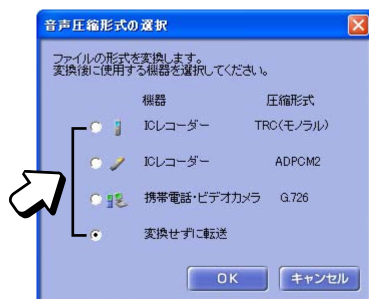
❽ [↓] をクリックする

転送先に音声ファイルが追加表示されます。
転送元の音声ファイルは、そのまま残ります。



タイトルが付いていない音声ファイルを転送すると、自動的に圧縮形式とモード、録音日時がタイトル名になります。

■ 複数の機器を選んでいる場合
(☞ 63 ページ「使用機器の選択」)
❽の後、右図のような〈音声圧縮形式の選択〉画面が表示されます。
お使いの機器（圧縮形式）を選んでください。



お知らせ

「Mobile Edition」をお使いの場合、〈音声圧縮形式の選択〉画面で「TRC」の圧縮形式は選べません。

次ページへ続く ▶

転送（保存）する

お知らせ

- 選んだドライブに「SD_VOICE」フォルダーやサブフォルダーがない場合は、「SD_VOICE」フォルダーと 4 つのサブフォルダーが作成されます。仮想ドライブを選択した場合は 1 つのサブフォルダーが作成されます。
- 空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、転送時に一時領域を使用するために、転送（保存）ができないことがあります。
- タイトルがついていない音声ファイルを SD メモリーカードからパソコンへ転送するとき、SD メモリーカードが「LOCK」されているとタイトル名は「No Title」になります。
- 転送した音声ファイルの内容がわかるようにタイトルの変更ができます。(☞ 35 ページ「タイトルを編集する」)
- 機器によっては、音声ファイルを録音した日時が記録されない場合があります。
  音声ファイルの録音日時の設定または変更ができます。（☞ 39 ページ「録音日時を変更する」）
- をクリックする他に、以下の方法でも下のウィンドウが開きます。
  － をクリックする
  －「表示」メニューから［ファイルの転送ウィンドウ表示］を選ぶ
- 選んだ音声ファイル以外を選択状態にする場合、「編集」メニューから［選択の切り替え］を選びます。
- ステレオ録音した音声ファイルは、「ステレオ」欄に が付きます。
- ステレオ TRC の音声ファイルを他の圧縮形式に変換すると、以下の録音モードになります。

圧縮形式	ステレオ TRC		「音声圧縮形式の選択」画面の機器名			
			TRC コーディック（モノラル TRC）	IC レコーダー（ADPCM2）	携帯電話・ビデオカメラ（G.726）	変換せずに転送（ステレオ TRC）
録音モード	HQ モード（ステレオ）	▶	HQ モード（モノラル）	HQ モード	SP モード	HQ モード（ステレオ）
	FQ モード（ステレオ）	▶	FQ モード（モノラル）	HQ モード	SP モード	FQ モード（ステレオ）
	SP モード（ステレオ）	▶	SP モード（モノラル）	SP モード	SP モード	SP モード（ステレオ）

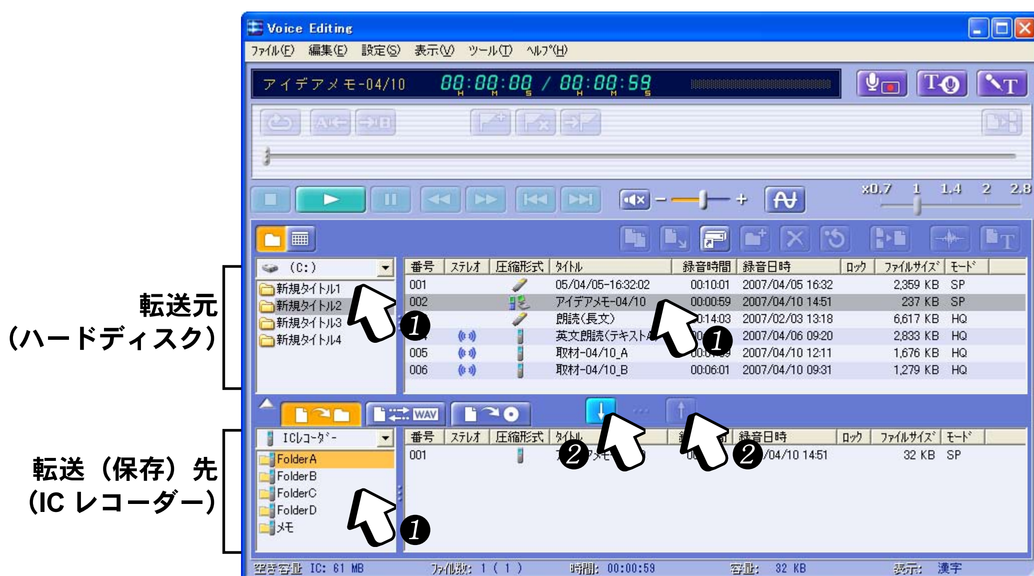
- ステレオの音声ファイルをモノラルの音声圧縮形式に変換すると、元のステレオには戻りません。
- 転送（保存）するときに音声圧縮形式を変更する場合、一時的にファイルを作成します。
  圧縮形式によっては一時的なファイルが大きくなる場合があります。
  その場合、オプションで空き容量が多いハードディスクの指定ができます。（☞ 64 ページ「オプションの設定」）
- 「Mobile Edition」で G.726 の音声ファイルを他の圧縮形式に変換すると、以下の録音モードになります。

G.726		ADPCM2	TRC	変換せずに転送（G.726）
SP	▶	SP	×	SP
LP	▶	SP	×	LP

また、TRC 圧縮形式の音声ファイルは表示されません。形式不明のファイルとして、 で示されます。

IC レコーダーなどへの転送（保存）

上下のウィンドウでの選択と↓↑により、IC レコーダーや、SD メモリーカード、ハードディスク間で音声ファイルを相互に転送できます。



❶ 上下ウィンドウで転送元と転送（保存）先のサブフォルダーと音声ファイルを選ぶ

上を転送元で下を転送（保存）先とするか、下を転送元で上を転送（保存）先にしてください。

❷ ↓か↑をクリックする

転送先ウィンドウに音声ファイルが追加表示されます。

お知らせ

- 転送（保存）中は、IC レコーダーや SD メモリーカードなどのリムーバブルメディアの取り付け／取り外しは、絶対にしないでください。
- 上下ウィンドウで転送（保存）先・転送元に同一の IC レコーダーを選ぶことはできません。
- IC レコーダーを 2 台以上接続し、IC レコーダー間での直接転送（保存）はできません。
- IC レコーダーの機種によっては、IC レコーダーのフォルダーボックスに「メモ」フォルダーが表示されます。「メモ」フォルダー内の音声ファイルは他のフォルダーや SD メモリーカード、ハードディスクへ転送（保存）できますが、他のフォルダーから「メモ」フォルダーへ転送（保存）することはできません。
- Voice Editing から IC レコーダーへ転送（保存）した音声ファイルのタイトルは、転送（保存）時に表示されていたタイトルになります。
  たとえば、漢字表示のときに IC レコーダーへ音声ファイルを転送（保存）すると、IC レコーダーでは漢字表示のときのタイトルになります。
- タイトルが全角で先頭 16 文字を超えている場合は、全角 16 文字以降（半角の場合は、先頭 32 文字以降）は削除されます。（☞ 35 ページ「タイトルの表示」）

再生する

音声ファイルの再生

パソコンのハードディスクや IC レコーダーに保存した音声ファイルが再生できます。

圧縮形式の アイコン

ステータスバー

音声ファイル一覧

ドライブの空き容量

音声ファイル一覧上の音声ファイル数（☞ 65 ページ）

音声ファイル一覧上の音声ファイルの録音時間の合計

音声ファイル一覧上の音声ファイルサイズの合計

表示モード（☞ 35 ページ）

❶ ドライブを選ぶ

❷ サブフォルダーを選ぶ

❸ 再生する音声ファイルを選ぶ

圧縮形式のアイコン ：TRC
：ADPCM2
：G.726
：形式不明のファイル（再生できません）

❹ ▶ をクリックする

▶ に変わり、 が再生位置を示します。

お知らせ

- エクスプローラーで、VM1 形式ファイルをダブルクリックしても再生されません。
- 複数の音声ファイルを選んでいる場合は音声ファイル一覧の上から順次再生されます。（☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）
- WAVE 形式の音声ファイルも再生できます。ただし、再生スピードの調整はできません。
- 「Moblie Edition」では、TRC 圧縮形式の音声ファイルは扱えません。
  ? で表示されます。

次ページへ続く ▶

再生する

ボタンの機能




停止


再生


一時停止（もう一度クリックするか、 をクリックすると再生が始まります）


早戻し／早送り（再生中に押し続ける。離すと通常の再生に戻ります）


スキップ（前後の音声ファイルに移ります）


エフェクター： をクリックした後、右隣の上下矢印をクリックして音質を切り替えます。

音質調整の一覧

音質調整番号	効　果
1 ～ 3	高音域カット
4 , 5	低音域カット
6 ～ 8	高音域＋低音域カット
9 , 10	中音域カット

• 録音状態によっては効果のない場合があります。

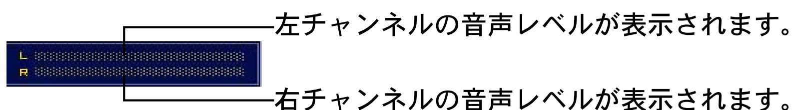

消音（音声ミュート）（再度クリックすると、音が出ます）


音量調整

次ページへ続く

再生する

再生音量のめやす
モノラル録音の音声ファイルを選んでいる場合、上の図のような再生音量を表示します。
ステレオ録音の音声ファイルを選んでいる場合、左右の再生音量を表示します。





スライダーつまみ（右クリックすると位置の微調整ができます）

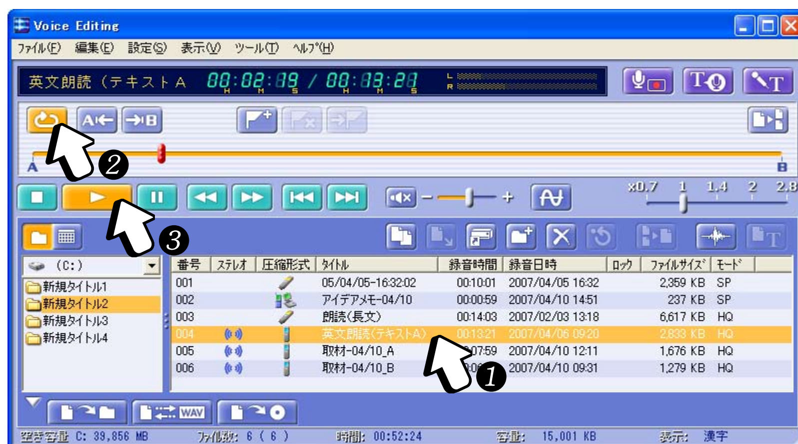
カウンター数値を直接入力できます。

1 クリックすると 1 秒動きます。長く押すと早く動きます。
（連続クリックをすばやく行うと正しく動かないことがあります）



ダイアログを開いた初期の時点に戻ります。

1 つの音声ファイルの繰り返し再生（リピート）



❶ 再生する音声ファイルを選ぶ

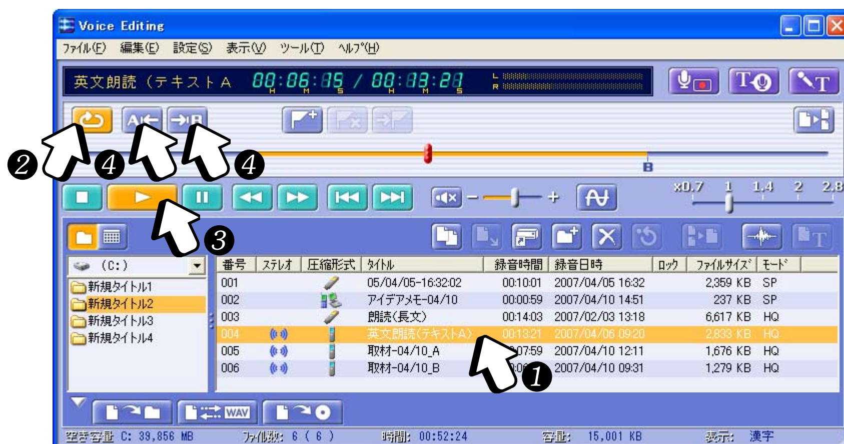
❷ をクリックする

に変わり、再生スライダーの表示がオレンジ色になります。
解除するにはもう一度クリックします。

❸ をクリックする

に変わり、繰り返し再生されます。
停止するにはをクリックします。

指定した 2 点間の繰り返し再生



❶ 再生する音声ファイルを選ぶ

❷ をクリックする

に変わり、再生スライダーの表示がオレンジ色になります。

❸ をクリックする

に変わり、再生がはじまります。

❹ が開始する位置に移動したら をクリックする／ が終了する位置に移動したら をクリックする

- 再生スライダーの A 点、B 点の間だけがオレンジ色に表示されます。
- を押すまで繰り返し再生されます。

お知らせ

- A を指定しなければ音声ファイルの先頭が開始点になり、B を指定しなければ音声ファイルの最後が終了点になります。
- [A] と [B] をドラッグして動かすこともできます。
- [A]、[B] を右クリックすると位置の微調整ができます。

カウンター数値を直接入力できます。

1 クリックすると 1 秒動きます。長く押すと早く動きます。
（連続クリックをすばやく行うと正しく動かないことがあります）



ダイアログを開いた初期の時点に戻ります。

インデックス機能

音声ファイルに、の付加（最大 16 カ所）、削除ができます。
を付けると、素早く聞きたい所から聞くことができます。



お知らせ

- IC レコーダーではインデックス機能を使うことはできません。
  パソコン上でを付けた音声ファイルを IC レコーダーに転送（保存）するとは解除されます。
- SD メモリーカードにはの情報は保存されます。

インデックスの付加

1 音声ファイルを再生する

2 付加する点でをクリックする

が付きます。

インデックスの削除

1 をクリックする

2 をクリックする

- が解除されます。
- 複数のがあるときは、続けてをクリックするとより左側が連続して解除できます。

インデックスを付けたところからの再生

1 音声ファイルを再生する

2 をクリックする

がまで飛びます。

お知らせ

- 音声ファイルを結合、分割するとは解除されます。
- の間隔は、最短 1 秒です。
- を右クリックすると位置の微調整ができます。



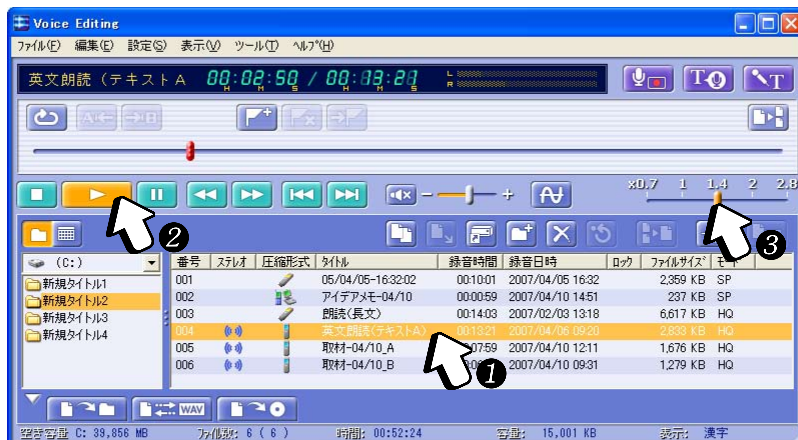
カウンター数値を直接入力できます。

1 クリックすると 1 秒動きます。長く押すと早く動きます。
(連続クリックをすばやく行うと正しく動かないことがあります)

ダイアログを開いた初期の時点に戻ります。

再生スピードの調整

聞きたいところを早く探すために早聞きしたいときや、メモの書き取りなどで遅聞きしたいときに音声ファイルの再生スピードを変えることができます。



❶ 再生する音声ファイルを選ぶ

❷ [▶] をクリックする

[▶] に変わり、再生がはじまります。

❸ 再生速度調整つまみを目盛り位置にドラッグする

お知らせ

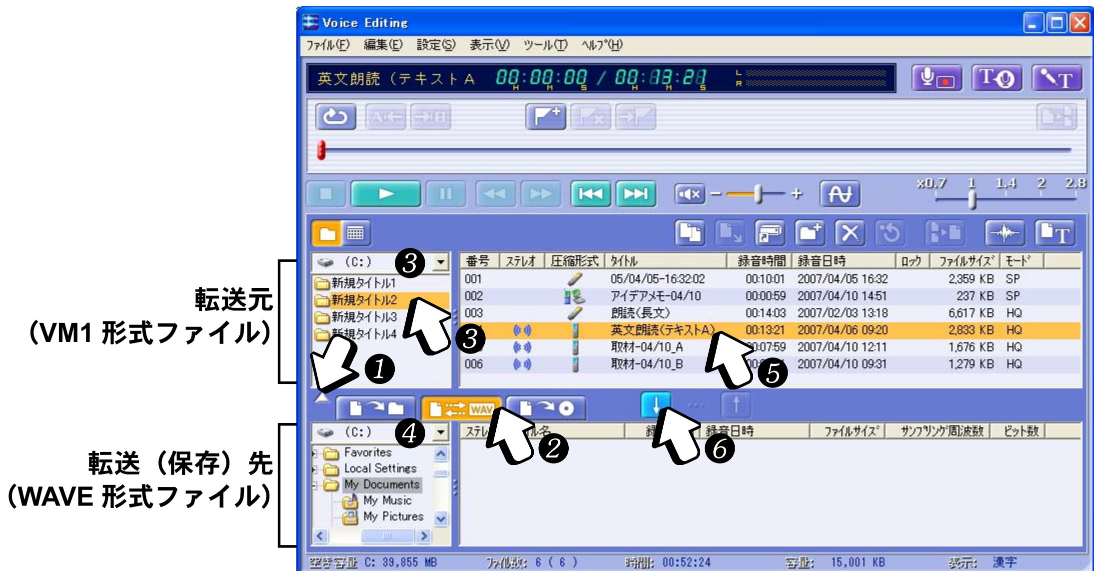
- 再生スピードを変更すると、再生される音声ファイルの音の高さがわずかに変わります。
- IC レコーダー内の音声ファイルを直接再生する場合、再生スピードの調整はできません。
- WAVE 形式の音楽ファイルを再生する場合、再生スピードの調整はできません。

変換する

VM1 形式の音声ファイルを WAVE 形式に変換して転送（保存）することができます。
逆に、WAVE 形式の音声ファイルを VM1 形式に変換して転送（保存）することもできます。

VM1 → WAVE 形式に変換

〈ファイル変換〉画面



1 **をクリックする**

に変わり、下のウィンドウが開きます。

2 **をクリックする**

3 **上ウィンドウでドライブとサブフォルダーを選ぶ**

4 **下ウィンドウで転送（保存）先のドライブとサブフォルダーを選ぶ**

5 **変換したい VM1 形式の音声ファイルを選ぶ**

（☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

6 **をクリックする**

に変わり、〈WAVE 形式に変換〉画面が表示されます。

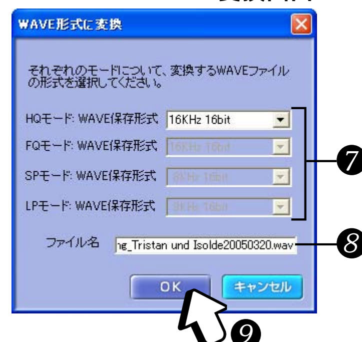
次ページへ続く ▶

❼ WAVE 形式ファイルのモードを選ぶ

録音モードに対応した WAVE 形式を選んでください。

VM1 形式	変 換	WAVE 形式
HQ モード（ステレオ） HQ モード（モノラル）	▶	11kHz/16bit、16kHz/16bit、22kHz/16bit のいずれか
FQ モード	▶	8kHz/16bit、11kHz/16bit、16kHz/16bit、22kHz/16bit のいずれか
SP モード	▶	11kHz/16bit または 8kHz/16bit
LP モード	▶	8kHz/16bit

変換画面



❽ ファイル名を入力する

変換時の初期ファイル名は［番号］+［タイトル名］+［録音日時］.WAV です。

お知らせ

- タイトル名に「\/:.;*?"<> ｜」が含まれる場合は自動的に「_」に置き換わります。
- 複数の音声ファイルを変換する時は上記のタイトル名で自動的に変換されます。

❾［OK］ボタンをクリックする

- 上のウィンドウに変換・転送した WAVE 形式の音声ファイルが表示されます。
- ▶ をクリックすると再生、確認できます。

お知らせ

- 空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、変換時に一時領域を使用するために、変換できない場合があります。
- WAVE 形式ファイルに変換する場合は転送（保存）先を「SD_VOICE」フォルダー以外の場所に指定してください。
- WAVE 形式の音声ファイルの転送（保存）先として、IC レコーダーは指定できません。
- WAVE 形式の音声ファイルを再生する場合、再生スピードの調整はできません。
- ステレオ録音の音声ファイルを WAVE 形式に変換すると、ステレオになります。

WAVE → VM1 形式に変換

〈ファイル変換〉画面



❶ をクリックする

に変わり、下のウィンドウが開きます。

❷ をクリックする

❸ 下ウィンドウでドライブとサブフォルダーを選ぶ

❹ 変換したい WAVE 形式の音声ファイルを選ぶ

をクリックすると音声ファイルの内容が確認できます。
（☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

❺ 上ウィンドウで転送（保存）先のドライブとサブフォルダーを選ぶ

次ページへ続く ▶

もくじへ

❻ をクリックする

下表と「使用機器選択」で設定された内容に従って自動的に変換されます。（☞ 63 ページ）

■ モノラル録音の場合

WAVE 形式（サンプリング周波数）	変 換	VM1 形式	圧縮形式
6.4 kHz	▶	SP モード	モノラル TRC
8 kHz	▶	FQ モード	
11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	HQ モード	
6.4 kHz	▶	LP モード	ADPCM2
8 kHz	▶	SP モード	
11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	HQ モード	
8 / 11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	SP モード	G.726

■ ステレオ録音の場合

WAVE 形式（サンプリング周波数）	変 換	VM1 形式	圧縮形式
6.4 kHz	▶	SP モード（ステレオ）	ステレオ TRC
8 kHz	▶	FQ モード（ステレオ）	
11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	HQ モード（ステレオ）	
6.4 kHz	▶	LP モード	ADPCM2
8 kHz	▶	SP モード	
11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	HQ モード	
8 / 11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	SP モード	G.726

上のウィンドウに変換・転送された VM1 形式の音声ファイルが表示されます。
タイトル名は WAVE 形式ファイルのファイル名が自動的に設定されます。

お知らせ

空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、変換時に一時領域を使用するために、変換できないことがあります。

カレンダー機能で検索する

録音日付をたよりに、カレンダー機能を使って音声ファイルを検索します。

中央をクリックすると前後３か月がメニューで表示されます。

カーソルをメニューの端に持っていくとスクロールされます。

2007/01
2007/02
2007/03
2007/04
2007/
2007/0
2007/07

次の月へ移ります。

前の月へ移ります。

青色の日付：
音声ファイルのある日付を示しています。

青字の日付：
今日を示しています。



オレンジ色の日付：
選んでいる音声ファイルの日付を示しています。

（※ カレンダーは一例です）

❶ をクリックする

録音した音声ファイルのある日付が青色で表示されます。

❷ 青色の日付をクリックする

- 日付がオレンジ色に変わり、音声ファイルが右側の音声ファイル一覧に表示されます。
- 複数の日付を選ぶと、音声ファイルが日付順に並んで表示されます。

■その月のすべての音声ファイルを表示させるには

をクリックする

日付順に並べられて表示されます。

■選択を解除するには

オレンジ色の日付をクリックする

音声ファイル一覧から音声ファイルが表示されなくなります。

■全ての選択を解除するには

をクリックする

全ての選択が解除され、音声ファイル一覧から音声ファイルが表示されなくなります。

お知らせ

- カレンダー上の右クリックで音声ファイルが存在する日付に移動できます。移動した先の音声ファイルが音声ファイル一覧に追加表示されます。
- 「表示」メニューから［カレンダー表示］を選んでも切り替わります。
- 以下の方法でフォルダー表示に戻ります。
  - をクリックする
  - 「表示」メニューから［フォルダ表示］を選ぶ



音声ファイルを編集する

ハードディスクや SD メモリーカード内の VM1 形式の音声ファイルやサブフォルダーの編集ができます。
IC レコーダーの音声ファイルは直接編集できません。パソコンに転送（保存）後に行ってください。

音声ファイルやサブフォルダーについて右の編集ができます。
また、仮想ドライブの作成ができます。

	音声ファイル	サブフォルダー
コピー／貼り付け	○	－
削　除	○	○
新規作成	－	○
ソート	○	－
タイトル変更	○	○
結　合	○	－
分　割	○	－
ロック	○	－

コピー (☞ 28 ページ)

貼り付け (☞ 28 ページ)

仮想ドライブ登録 (☞ 43 ページ)

フォルダーの作成 (☞ 44 ページ)

削除 (☞ 29、44 ページ)

音声ファイル分割 (☞ 28 ページ)

ステレオ
スレテオ録音の音声ファイルには が付きます。

元に戻す

音声ファイル結合 (☞ 27 ページ)

タイトルの変更 (☞ 36 ページ)

圧縮形式
：TRC
：ADPCM2
：G.726
：形式不明のファイル

ソート (☞ 30 ページ)

ロック (☞ 29 ページ)

漢字表示／カナ表示 (☞ 35 ページ)

音声ファイル波形表示 (☞ 31 ページ)

もくじへ

音声ファイルの結合 

2 つの音声ファイルをつなげて 1 つのファイルにすることができます。

お知らせ

- 同じ圧縮形式、同じモードに限り結合ができます。ステレオとモノラルの音声ファイルの結合はできません。
- 音声ファイルを結合しているときには、IC レコーダーの取り付け／取り外しは、絶対にしないでください。

❶ つなげたい音声ファイルを選ぶ

Ctrl キーを押しながら音声ファイルをクリックすると、2 つの音声ファイルが選べます。

❷ をクリックする

〈ファイルの結合〉画面が表示されます。

❸ 結合後のファイル名、順序、結合前のファイルの削除を設定する

❹ OK をクリックする

ファイルの結合
ファイルを結合します。結合する順序と結合後のタイトル名を設定してください。
ファイル1
漢字タイトル 取材-04/10_A
カナタイトル Coverage-04/10_A
＋
ファイル2
漢字タイトル 取材-04/10_B
カナタイトル Coverage-04/10_B
結合後のファイル
漢字タイトル 取材-04/10_A
カナタイトル Coverage-04/10_A
結合順序 ファイル1の後ろにファイル2を結合する。
ファイル2の後ろにファイル1を結合する。
ファイル結合後、結合前のファイルを削除する。
（結合前のファイルにロックファイルが含まれている場合、チェックできません。）
OK キャンセル
❹

お知らせ

- 手順❷のとき、「編集」メニューから［音声ファイル結合］を選ぶこともできます。
- パソコン内の音声ファイルのみファイル結合ができます。
- ロックされている音声ファイルもファイル結合ができます。
  ロックされている音声ファイルは、結合後に削除することはできません。

音声ファイルの分割



❶ で分割したい位置を決める

❷ をクリックする

確認の画面が表示されます。

❸ [はい］ボタンをクリックする

- 分割された 2 個の音声ファイルが表示されます。
- 分割を実行しないときは［いいえ］ボタンをクリックしてください。
- 分割を実行直後に元に戻すには、をクリックしてください。

お知らせ

- 分割後の録音時間やファイルサイズの合計は、表示の精度により分割前の値と一致しないことがあります。
- 手順❷のとき、「編集」メニューから［音声ファイル分割］を選ぶこともできます。

コピー／貼り付け



音声ファイルをコピーし、他のサブフォルダーに貼り付けることもできます。

❶ 音声ファイルを選ぶ

❷ をクリックする

❸ サブフォルダーを選ぶ

❹ をクリックする

コピーした音声ファイルが貼り付けられます。

お知らせ

- とをクリックする他に、以下の方法でも音声ファイルのコピー / 貼り付けができます。
  – 右クリックで表示されるメニューから［コピー］または［貼り付け］を選ぶ
  –「編集」メニューから［コピー］または［貼り付け］を選ぶ
- 上のウィンドウでコピーした音声ファイルを下のウィンドウのサブフォルダーへ貼り付けることもできます。
- IC レコーダー内の音声ファイルをコピーし、同じ IC レコーダー内の別のサブフォルダーへ貼り付けることはできません。

音声ファイルの削除



❶ 削除したい音声ファイルを選ぶ

（☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

❷ ☒をクリックする

確認の画面が表示されます。

❸［はい］ボタンをクリックする

削除を行わないときは［いいえ］ボタンをクリックしてください。

お知らせ

- ロックされた音声ファイルの削除はできません。ロックを解除してください。
- ☒をクリックする他に、以下の方法でも音声ファイルの削除ができます。
  - キーボードの［Delete］キーを押す
  - 右クリックで表示されるメニューから［ファイルの削除］を選ぶ
  - 「ファイル」メニューから［ファイルの削除］を選ぶ

音声ファイルのロック

大切な音声ファイルを消してしまったり、編集したりできないようにすることができます。

❶ ロックする音声ファイルを選ぶ

❷「ファイル」メニューから［ファイルロック］を選ぶ

- 音声ファイル一覧でロックした音声ファイルに🔒がつきます。
- 「ファイル」メニューから［ファイルロック解除］を選ぶとロックを解除することができます。

お知らせ

手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［ファイルロック］または［ファイルロック解除］を選ぶこともできます。

音声ファイルのソート



音声ファイル一覧の項目をクリックする

• 音声ファイルが、下表に従ってソート（並べ替え）されます。

項　目	備　考
ステレオ	モノラル、ステレオの順
圧縮形式	TRC、G.726、ADPCM2 の順
タイトル	数字、アルファベット、50 音順、漢字コード順
録音時間	
録音日時	
ロック	ロックがかかっている、かかっていない順
ファイルサイズ	
モード	HQ、FQ、SP、LP 順
フォルダータイトル	カレンダー機能時：数字、アルファベット、50 音順、漢字コード順

• もう一度同じボタンをクリックすると現在の順番と逆の順番にソートされます。

お知らせ

次の場合はソートできません。

• IC レコーダー
• SD メモリーカード内の（IC レコーダー）アイコンのフォルダーの中
• CD-R
• ロックされたメディア
• CD-R ウィンドウ内の CD-R/RW に書込み済みの音声ファイル（Windows XP のみ）

音声波形で編集する

音声ファイルの音声波形を見ながら、切り取り / コピー / 貼り付けの編集ができます。

❶ 音声ファイルを選ぶ

❷ をクリックする

〈音声ファイル波形〉画面が表示されます。



お知らせ

- ステレオ録音の WAVE 形式ファイルを選ぶと、左右の音声波形が表示されます。
  それぞれの音声波形は個別に編集できます。
  左右を示すボタンをクリックすると、OFF（R、L）になります。OFF になった方の音声波形の編集はできません。
- VM1 形式ファイル、WAVE 形式ファイルともに音声波形で編集ができます。
- IC レコーダー内の音声ファイルは、音声波形で編集ができません。
- 「編集」メニューから［音声波形表示］を選ぶこともできます。

次ページへ続く ▶

ボタンの機能

保存	・・・・・・・・・・	〈音声ファイル波形〉画面で編集した音声ファイルを保存します。
コピー	・・・・・・・・	選択した範囲をコピーします。
切り取り	・・・・・・	選択した範囲を切り取ります。
無音	・・・・・・・・・・	ステレオ録音の片側チャンネルを選んでいるとき、切り取りボタンが無音ボタンに変わります。 選択した範囲を無音にします。
貼り付け	・・・・・・	コピー / 切り取った範囲をスライダーの位置に貼り付けます。
切り抜き	・・・・・・	選択した範囲を残します。
元に戻す	・・・・・・	直前の操作を元に戻します。
初期状態に戻す	・・	メイン画面から〈音声ファイル波形〉画面を開いたときの波形状態に戻します。
時間軸拡大		
時間軸縮小		
音声レベル拡大		
音声レベル縮小		
フィット	・・・・・・	時間軸と音声レベルが画面に収まるように表示されます。
アンプ＋	・・・・・・	選択した範囲の音声波形が拡大され、音声レベルが上がります。
アンプ－	・・・・・・	選択した範囲の音声波形が縮小され、音声レベルが下がります。

- ステレオ録音の音声ファイルを選んだ場合、〈音声ファイル波形〉画面の左側に以下のボタンが表示されます。

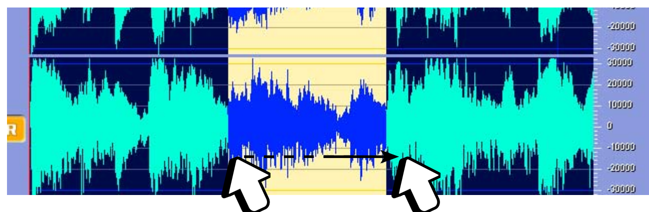
左チャンネル	・・	左チャンネル波形の編集ができます。
右チャンネル	・・	右チャンネル波形の編集ができます。

音声波形の切り取り / コピー / 貼り付け



❶ 音声波形上の切り取りたい範囲をドラッグする

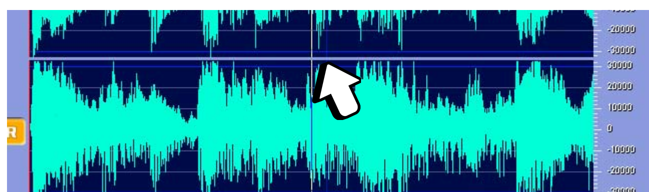
ドラッグした範囲が選択状態になります。



❷ をクリックする

選択した範囲が切り取られます。

❸ スライダーを貼り込みたい位置に移動する



❹ をクリックする

スライダーの位置に切り取った音声波形が貼り込まれます。

お知らせ

- 手順❷のときをクリックすると、選択した範囲がコピーされます。
- 手順❷のときをクリックすると、選択した範囲が切り抜かれ画面に表示されます。
- 〈音声ファイル波形〉画面の音声波形上を右クリックすると、ショートカットメニューが表示されます。
- 選択した範囲の端をドラッグすると、範囲の長さを変更することができます。
- をクリックすると、スライダーが再生位置を示しながら再生できます。選択範囲の音声の確認ができます。
- 選択した範囲の開始点と終了点、選択した範囲の長さを数値で指定することもできます。
- ステレオ録音の WAVE 形式ファイルを選んだ場合、左右個別に編集ができます。
  たとえば、左チャンネルの音声波形を編集したい場合、右側のをクリックします。
  ボタンが OFF になって右チャンネルの音声波形がグレー表示になり、左チャンネルのみ音声波形の編集ができます。
- ステレオ録音の片側波形のみの切り取りはできません。
  ステレオ録音の片側波形をグレイ表示にすると、がに変わります。選んだ音声波形を無音にします。
- 一方の音声波形を、他方の音声波形に貼り込むことができます。
  たとえば、左チャンネルの音声波形をコピーし、右チャンネルに貼り込むことができます。

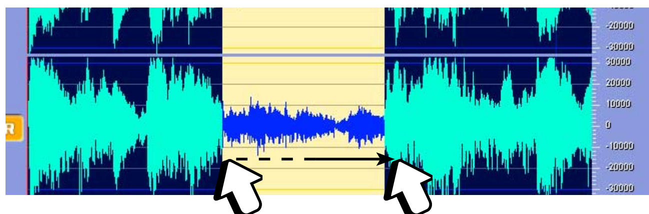
音声レベルの変更



音声波形の音声レベルを拡大、縮小します。
聞き取りにくい部分を拡大したり、音声が大きい部分を縮小したりして、全体の音声レベルを合わせるときなどに利用できます。

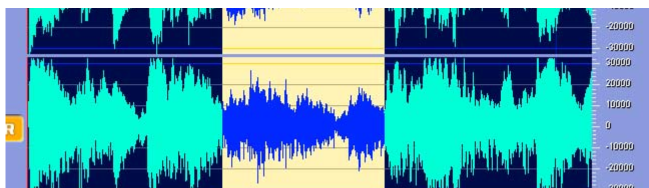
1 音声レベルが小さい部分をドラッグする

ドラッグした範囲が選択状態になります。



2 [拡大ボタン]をクリックする

選んだ範囲の音声波形が拡大されます。



お知らせ

- [縮小ボタン]をクリックすると、選んだ範囲の音声波形が縮小されます。
- ステレオ録音の音声ファイルの場合、左右個別の編集ができます。

音声波形の保存



波形で編集した音声ファイルを保存します。

1 [保存ボタン]をクリックする

〈ファイルの保存〉画面が表示されます。

2 漢字タイトルとカナタイトルを入力する

3 [OK]をクリックする

VM1 形式ファイルの場合

ファイルの保存
タイトル名を入力してください。
漢字 取材メモ-04/02(1)
カナ coverage memo-04/02(1)
OK キャンセル

お知らせ

WAVE 形式ファイルを保存すると、ファイル名を入力する〈ファイルの保存〉画面が表示されます。

タイトルを編集する

タイトルの表示

サブフォルダーおよび音声ファイルのタイトルは、漢字表示とカナ表示を切り替えて入力できます。

漢字表示：「表示」メニューから［漢字表示］を選ぶ

カナ表示：「表示」メニューから［カナ表示］を選ぶ



漢字表示／カナ表示

- 最大入力文字　音声ファイル　：全角で 100 文字（半角で 200 文字）
  ただし全角と半角の文字数の合計は、半角に換算して 250 文字までです。（全角 1 文字を半角 2 文字と数えます）
  サブフォルダー：全角で 16 文字（半角で 32 文字）
- 扱える文字　漢字表示（全角、半角カナ、英数字）：JIS 第 1 水準、JIS 第 2 水準（Shift JIS）、JISX0201
  カナ表示（半角カナ、英数字）：JISX0201

お知らせ

- 音声ファイルのタイトルまたはフォルダータイトルは、Voice Editing での表示専用です。
  Windows のエクスプローラーでのファイル名、フォルダー名とは異なりますのでご注意ください。
- Voice Editing から IC レコーダーへ転送（保存）した音声ファイルのタイトルは、転送（保存）時に表示されていたタイトルになります。
  たとえば、漢字表示のときに IC レコーダーへ音声ファイルを転送（保存）すると、IC レコーダーでは漢字表示のときのタイトルになります。（☞ 13 ページ「IC レコーダーなどへの転送（保存）」）
- 音声ファイルのタイトルが全角で先頭 16 文字を超えている場合は、全角 16 文字以降（半角の場合は、先頭 32 文字以降）は削除されます。
- 音声ファイルのタイトルを表示することができる IC レコーダーでも、表示対応していない文字は、表示窓で正しく表示できない場合があります。
- 携帯電話で録音した音声ファイルは、カナ表示モードでは表示されません。
- メモリー内蔵タイプの IC レコーダー上では音声ファイルのタイトル変更はできません。
- 機器によっては、音声ファイルを録音した日時が記録されない場合があります。
  音声ファイルの録音日時の設定または変更ができます。（☞ 39 ページ「録音日時を変更する」）
- 半角表示のみの IC レコーダー（RR-XR シリーズ）をお使いの場合、カナ表示でご利用になることをお勧めします。

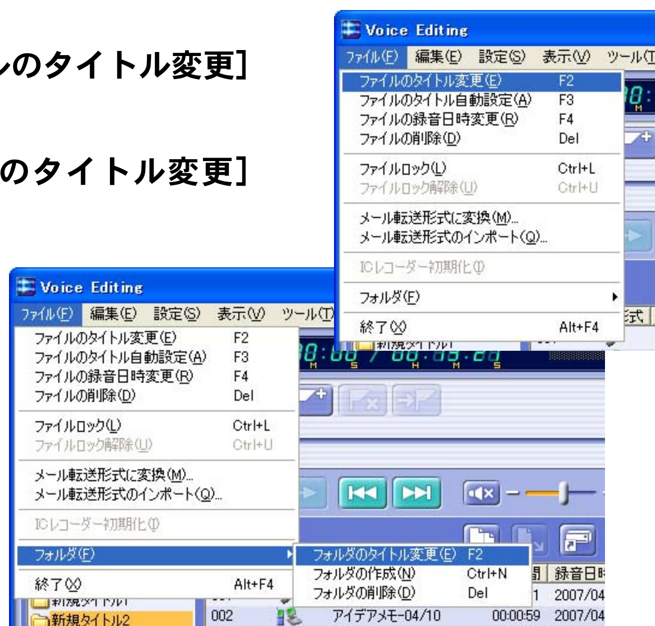
音声ファイルやサブフォルダーのタイトルの変更

❶ **タイトルを変更したい音声ファイルまたはサブフォルダーを選ぶ**

❷ **「ファイル」メニューから［ファイルのタイトル変更］を選ぶ**

または［フォルダ］→［フォルダのタイトル変更］をクリックする

タイトル部分が入力できる状態になります。



❸ **新しいタイトルを入力する**

（☞ 35 ページ「タイトルの表示」）

❹ **パソコンの Enter を押す**

お知らせ

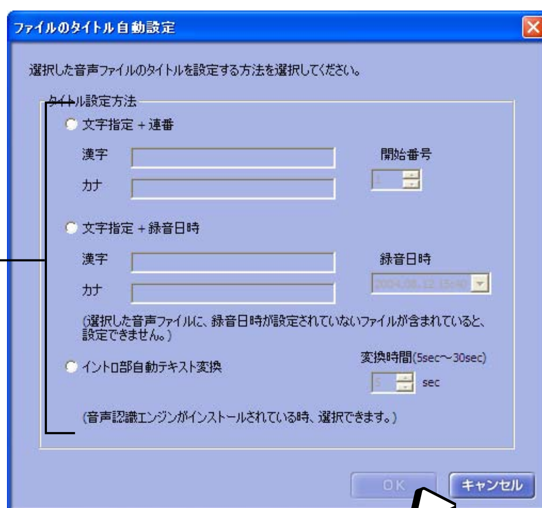
手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［ファイルのタイトル変更］や［フォルダのタイトル変更］を選ぶこともできます。

タイトルを自動的に設定する

❶ タイトルを変更したい音声ファイルを選ぶ

❷「ファイル」メニューから［ファイルのタイトル自動設定］を選ぶ

〈ファイルのタイトル自動設定〉画面が表示されます。



❸ 設定するタイトルの種類を選ぶ

設定できるタイトルの種類は以下の通りです。

- 「文字指定＋連番」
  指定した文字列に順番に番号をつけてタイトルにします。
- 「文字指定＋録音日時」
  指定した文字列と音声ファイルの録音日時を組み合わせてタイトルにします。
  音声ファイルを複数選択した場合、「録音日時」プルダウンリストで確認ができます。
- 「イントロ部自動テキスト変換」
  音声ファイルの先頭の部分をタイトルにします。
  詳しい操作の手順については、次項の「イントロ部自動テキスト変換の使い方」を参照してください。

❹ OK をクリックする

お知らせ

- 手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［ファイルのタイトル自動設定］を選ぶこともできます。
- 「文字指定＋連番」と「文字指定＋録音日時」の文字入力欄は、全角文字で 25 文字まで、半角文字で 50 文字まで入力できます。
- 「文字指定＋録音時間」の「録音日時」プルダウンリストでは、録音日時の確認ができます。
  録音日時の変更はできません。
- 音声ファイルに録音した日時が記録されていない場合、「文字指定＋録音日時」は設定できません。
  録音日時の変更については、「録音日時を変更する（☞ 39 ページ）」を参照してください。

イントロ部自動テキスト変換の使いかた

音声ファイルの先頭部分の音声を文字に変換し、タイトルにします。

お知らせ

「イントロ部自動テキスト変換」は、「音声認識エンジン」がインストールされ、「Dictation pad」が起動できる場合のみ設定できます。

❶〈ファイルのタイトル自動設定〉画面から「イントロ部自動テキスト変換」を選び、「変換時間」を指定する

「変換時間」で、音声ファイルの先頭から何秒間をタイトルにするのか指定します。

❷ OK をクリックする

〈ユーザーの管理〉画面が表示されます。

❸ 音声ファイルを録音したユーザーを選び、[開く] ボタンをクリックする

音声ファイルの先頭部分がタイトルに変換されます。
変換された先頭部分は、漢字表示側の「タイトル」欄に入力されます。

お知らせ

「イントロ部自動テキスト変換」を設定する前に音声認識エンジンをトレーニングしてください。
トレーニングの方法については、「音声を文字に変換する（音声認識）（☞ 45 ページ）」を参照してください。

録音日時を変更する

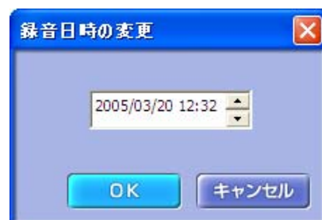
機器によっては、音声ファイルを録音した日時が記録されない場合があります。録音した記録として日時を付けることができます。
また、音声ファイルを整理する都合上、実際に録音した日時と異なる日時をつけたい場合にも利用できます。

お知らせ
録音日時の変更は Voice Editing の音声ファイル一覧に表示される「録音日時」を変更します。ファイル本体の日時の変更はできません。

❶ 録音日時を変更したい音声ファイルを選ぶ

❷「ファイル」メニューから［ファイルの録音日時変更］を選ぶ

〈録音日時の変更〉画面が表示されます。



❸ 録音日時を変更し、OK をクリックする

選択した音声ファイルの録音日時が変更されます。

お知らせ
- 手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［ファイルの録音日時変更］を選ぶこともできます。
- 録音日時がある音声ファイルを選択している場合、確認の画面が表示されます。

E メールに音声ファイルを添付する

E メールを送付する相手が Voice Editing を持っていない場合、再生専用の Voice Editing Mini Player を添付できます。

音声ファイルの添付・送付

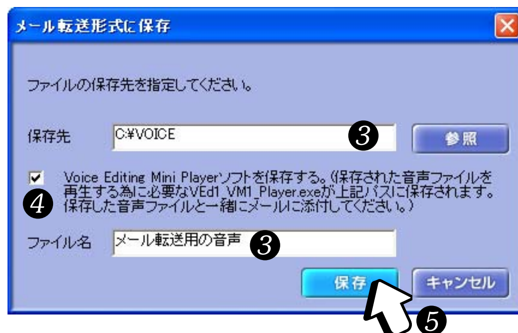


❶ 送付する音声ファイルを選ぶ

複数の音声ファイルを選ぶこともできます。
（☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

❷「ファイル」メニューから［メール転送形式に変換］を選ぶ

〈メール転送形式に保存〉画面が表示されます。



❸ 保存先とファイル名を入力する

ファイル名に「\/:.;*?"<> ｜」が含まれる場合は自動的に「_」に置き換わります。

❹「Voice Editing Mini Player ソフトを保存する。」に「✔」を入れる

❺［保存］ボタンをクリックする

指定した保存先に Voice Editing Mini Player「VEd1_VM1_Player.exe」と、❸で付けた名称の VM1 のファイル「＊ .pvc」が保存され、エクスプローラー画面が表示されます。



❻ お使いの E メールソフトを使って、「VEd1_VM1_Player.exe」と VM1 のファイル「＊ .pvc」を添付して送付する

お知らせ

- 手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［メール転送形式に変換］を選ぶこともできます。
- 2 回目以降は「VEd1_VM1_Player.exe」を添付して送付する必要はありません。「＊ .pvc」のみを添付・送付してください。

次ページへ続く ▶

受け取った音声ファイルの再生

❶ 受け取った「VEd1_VM1_Player.exe」をダブルクリックする

Voice Editing Mini Player が解凍、保存され、〈ヘルプ〉画面が表示されます。
「VEd1_VM1_Player.exe」と同じフォルダーに「VM1_Player」フォルダーが作成されます。



❷「VM1_Player」内の「VEd1_VM1_Player.exe」をダブルクリックする

Voice Editing Mini Player が起動します。



❸ VM1 のファイル「＊ .pvc」を Voice Editing Mini Player 上にドラッグ＆ドロップする





❹ Voice Editing Mini Player の［▶］をクリックする

音声ファイルが再生されます。



お知らせ

- 手順❸のとき、Voice Editing Mini Player を右クリックして表示されるメニューから［メール転送形式のインポート］を選ぶこともできます。
- 以前のバージョンで作成した VM1 のファイル「＊ .pvc」を Voice Editing Mini Player で再生できます。
- VM1 のファイル「＊ .pvc」は Voice Editing Ver.1.0 でも再生できます。
  再生には以下の方法があります。
  － VM1 のファイル「＊ .pvc」を Voice Editing Ver.1.0 の音声ファイル一覧にドラッグ＆ドロップする
  － 右クリックで表示されるメニューから［メール転送形式のインポート］を選ぶ
  －「ファイル」メニューから［メール転送形式のインポート］を選ぶ

スキン（小画面）を使う

限られた機能だけを使うときはスキン（小画面）を使うと便利です。

「表示」メニューの[スキン]から、好みのスキンを選ぶ



■ Panasonic_Std



■ Panasonic_Slim



■ Panasonic_Cellular



■ **通常画面にもどるには**

スキンの右上の□をクリックする

お知らせ

スキン（小画面）の情報表示部分にマウスカーソルを重ねると、音声ファイルのタイトルが表示されます。

仮想ドライブの作成

各々のドライブのルート・ディレクトリ（最上位階層）にある「SD_VOICE」フォルダー以外に、好みの階層に「SD_VOICE」フォルダーを新規作成して仮想ドライブとして使用できます。



❶ をクリックする

に変わり、〈仮想ドライブ登録〉画面が表示されます。

❷ ［新規作成］ボタンをクリックする

〈仮想ドライブの作成〉画面が表示されます。

❸ 仮想ドライブ名、パス（フォルダー作成先）を入力し、［設定］ボタンをクリックする

- パスは画面下段の一覧からフォルダーを選択しても指定できます。
- 〈仮想ドライブ登録〉画面に戻ります。

❹ ［閉じる］ボタンをクリックする

仮想ドライブが作成され、ドライブボックスで新規のドライブとして選べます。

お知らせ

- をクリックする他に、「設定」メニューから［仮想ドライブ登録］を選ぶこともできます。
- 複数の仮想ドライブを作成した場合、〈仮想ドライブ登録〉画面内で使わない仮想ドライブの「✔」を外すと、一時的に非表示にできます。
- 仮想ドライブはドライブボックスのプルダウンリストから選べます。



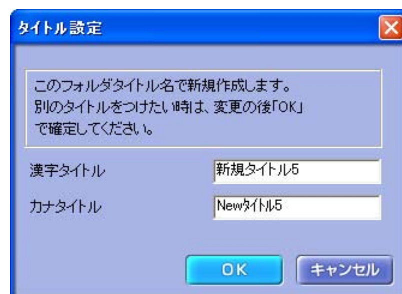
新しいサブフォルダーの作成／削除

新しいサブフォルダーの作成



❶ をクリックする

〈タイトル設定〉画面が表示されます。



❷ サブフォルダーのタイトルを入力し、OK をクリックする

ドライブボックスに新しいサブフォルダーが追加されます。

お知らせ

をクリックする他に、右クリックで表示されるメニューから［フォルダの作成］を選ぶこともできます。

サブフォルダーの削除



❶ 削除したいサブフォルダーを選び、 をクリックする

確認の画面が表示されます。

❷ ［はい］ボタンをクリックする

削除を行わないときは［いいえ］ボタンをクリックしてください。

お知らせ

- をクリックする他に、右クリックで表示されるメニューから［フォルダの削除］を選ぶこともできます。
- WAVE 形式の音声ファイルを含むサブフォルダーを削除するときは、削除したくない他の形式のデータをあらかじめ退避してからおこなってください。
- ロックされた音声ファイルを含むサブフォルダーの削除はできません。

もくじへ

音声を文字に変換する（音声認識）

音声を文字に変換することができます。

お知らせ

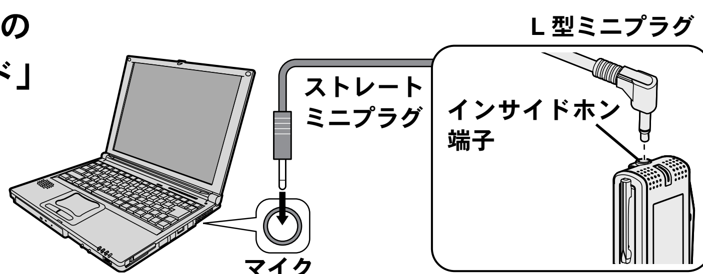
- 初めて変換する前には、「音声認識のプロパティ」で「トレーニング」を必ず行ってください。
- 話し方や音声の内容によっては、正しく文字に変換されない場合があります。
  音声認識の精度には個人差があります。はっきりとした口調で急がないで話してください。また、静かな環境で話してください。
  句読点の「、」は「てん」、「。」は「まる」と読み上げてください。
- Windows 98SE/Windows Me でトレーニングした音声認識ユーザーと、Windows 2000/Windows XP でトレーニングした音声認識ユーザーとは互換性がありません。

トレーニング

音声を文字に変換する準備を行います。
以下の手順で音声認識ユーザーを作成します。

1 IC レコーダーとパソコンを付属の「音声・テキスト変換専用コード」で接続する

IC レコーダーの「録音モニター機能」をマイクロフォンとして利用します。



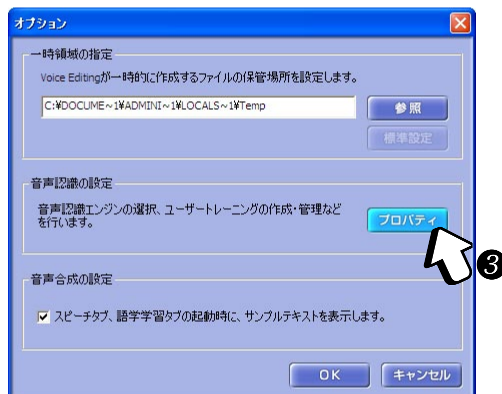
お知らせ

- RR-US090/070/050 の IC レコーダーをマイクロフォンとして利用する場合、会議 / メモ切り替えスイッチを「メモ」ポジションにして使用してください。
- RR-US090/070/050 以外の IC レコーダーは、マイクロフォンとして利用できません。市販のマイクロフォンをパソコンに接続してください。
- IC レコーダーをお使いになる場合、IC レコーダーの USB ケーブルをパソコンから外してください。
- 「Mobile Edition」をお使いの場合、市販のマイクロフォンをパソコンのマイクプラグに接続してください。

次ページへ続く

❷「設定」メニューから［オプション］を選ぶ

「オプション」画面が表示されます。



❸［プロパティ］ボタンをクリックする

「音声認識のプロパティ」画面が表示されます。

❹音声認識エンジンを選ぶ

「音声認識エンジン」から音声認識のトレーニングを行う音声認識エンジンを選びます。



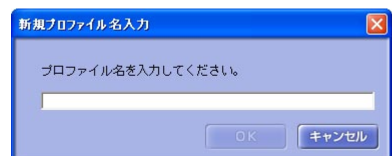
❺［オーディオ入力］ボタンをクリックする

「録音コントロール」画面が表示されます。
「マイク」の「選択」にチェックマークが付いているか確認します。



❻「音声認識のプロパティ」画面の「ユーザーの管理」の［新規作成］ボタンをクリックする

「新規プロファイル名入力」画面が表示されます。



❼音声認識ユーザー名（プロファイル名）を入力し、［OK］ボタンをクリックする

「マイク ウィザード」が起動します。

次ページへ続く

もくじへ

❽ IC レコーダーの録音ボタンを ON にし、マイクの調整をする

- 「マイク ウィザード」の指示に従って、マイクの調整を行います。
- IC レコーダーをお使いになる場合、会議 / メモ切り替えスイッチを「メモ」ポジションにします。

❾「マイク ウィザード」の［完了］をクリックする

「音声トレーニング」ウィザードが起動します。

❿ 音声トレーニングを行う

「音声トレーニング」ウィザードの指示に従ってください。
音声トレーニングが終了すると、音声認識ユーザーの作成が始まります。

⓫ 音声認識ユーザーの作成が終了したら、「音声認識のプロパティ」画面の［OK］をクリックする

お知らせ

- 音声認識ユーザーは、トレーニングを繰り返すと認識精度が上がります。
  「音声認識のプロパティ」画面の［トレーニングの追加］をクリックし、「音声トレーニング」ウィザードの指示に従ってトレーニングを繰り返します。トレーニングの量については、「付録（☞ 79 ページ）」をご覧ください。
- 音声認識ユーザーは、「Dictation Pad」の🔧からも作成、追加トレーニングができます。
- IC レコーダーの代わりに、マイクロフォンを接続しても音声認識が行えます。
- 音声認識ユーザー名の末尾には、手順❹で選んだ音声認識エンジンの名前がつきます。

文字に変換する

声で文章の入力ができます。
音声を文字に変換する方法は、以下の 2 つがあります。

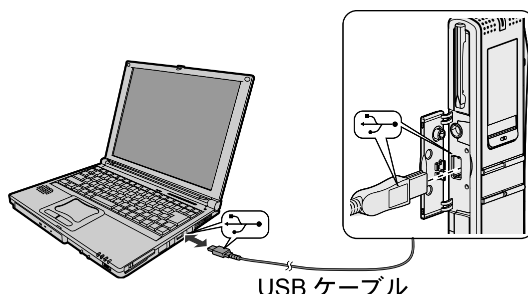
- 録音した音声ファイルをテキスト変換する
- IC レコーダーまたはマイクロフォンに向かって話した音声をその場でテキスト変換する

音声ファイルを文字に変換する

お知らせ

会議 / メモ切り替えスイッチを「メモ」ポジションにして録音した音声ファイルを使用してください。

❶ IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続する



❷ ドライブボックスのプルダウンリストから IC レコーダーを選び、「メモ」フォルダーを選ぶ



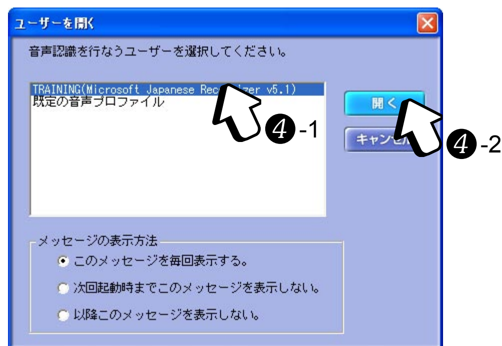
❸「メモ」フォルダー内から文字に変換する音声ファイルを選び、［T］をクリックする

〈ユーザーを開く〉画面が表示されます。

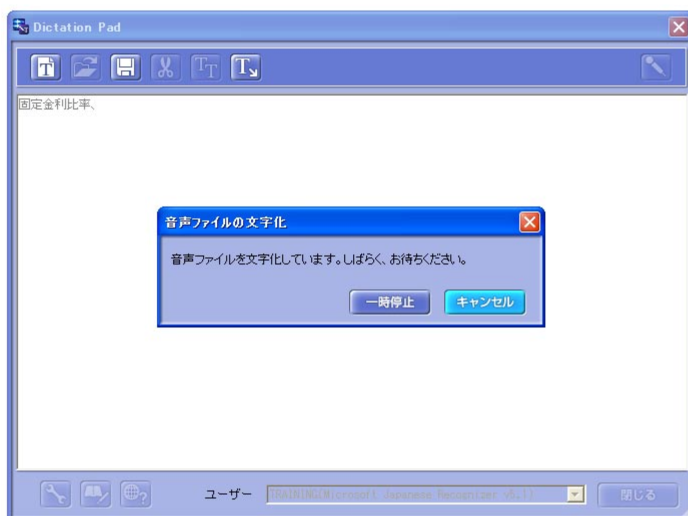
次ページへ続く

❹ 音声認識ユーザー名を選び、［開く］ボタンをクリックする

「Dictation Pad」が起動し、音声ファイルを文字に変換します。



変換中に、［一時停止］ボタンをクリックすると、テキスト変換が途中で止まります。
［再開］ボタンをクリックすると、テキスト変換が再開します。
［キャンセル］ボタンをクリックすると、テキスト変換が中止します。



❺ をクリックする

テキスト変換した文書の保存ができます。



お知らせ

- IC レコーダーの「メモ」ポジションで録音した音声ファイルでテキスト変換すると、より高い音声認識率が得られます。
- ハードディスクの空き容量によっては、音声認識ができない場合もあります。
- をクリックすると、音声認識に関するサポートページが表示されます。

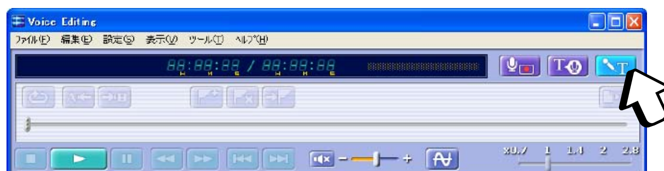
ディクテーションをする

IC レコーダーまたはマイクロフォンに向かって話した音声をその場でテキスト変換します。

❶ **IC レコーダーとパソコンを付属の「音声・テキスト変換専用コード」で接続する**

❷ **をクリックする**

「Dictation Pad」が起動します。



❸ **音声認識ユーザー名を選ぶ**

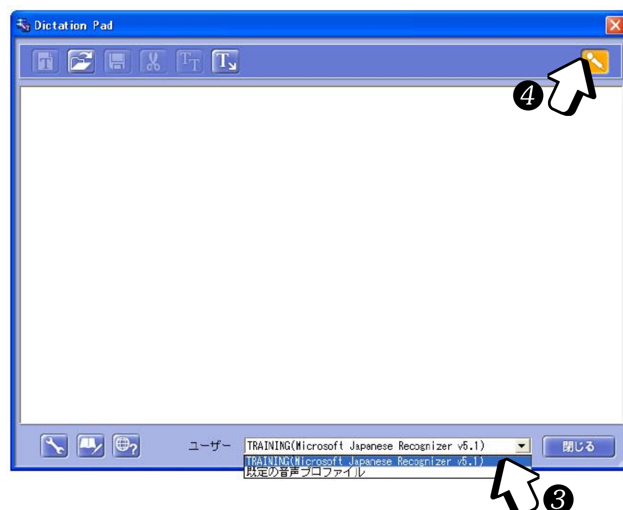
❹ **「Dictation Pad」のマイクを ON にする**

をクリックすると、に変わります。

❺ **IC レコーダーの録音ボタンを ON にする**

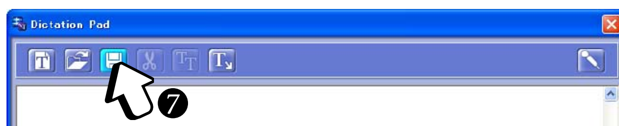
❻ **IC レコーダーに向かって文章を読み上げる**

読み上げた文章が文字に変換されます。



❼ **をクリックする**

テキスト変換した文書の保存ができます。



お知らせ

マイクロフォンをお使いの場合、手順❺のときにスイッチを ON にします。

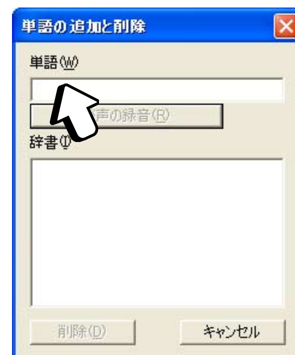
単語を登録する

より高い認識率を得るために、認識しにくい単語を登録します。

❶「Dictation Pad」の をクリックする



「単語の追加と削除」画面が表示されます。



❷「単語」欄に登録する単語を入力する

❸ 単語の発音を登録する

［発声の録音］ボタンをクリックし、入力した単語を読み上げます。
単語が認識されると、「辞書」欄に追加されます。
「辞書」欄に追加されない場合は、その単語を繰り返して読み上げます。

❹［閉じる］ボタンをクリックします。

登録した単語を読み上げると、辞書に登録した文字列にテキスト変換されます。

文字を音声に変換する（音声合成）

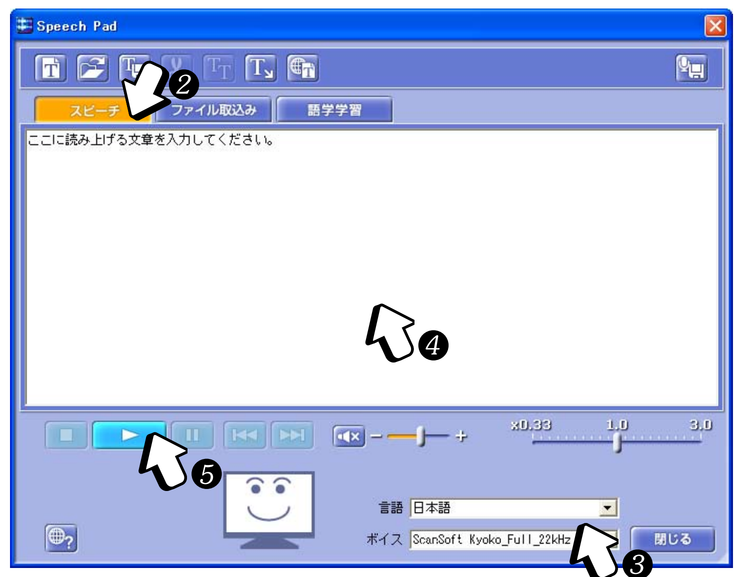
文章を読み上げる

入力した文章を読み上げます。
文章を耳で聞いて内容を確認したり、メールを読み上げさせながら別の作業をしたりするなどに利用できます。



❶ [T] をクリックする

「Speech Pad」が起動します。



❷「スピーチ」タブをクリックする

❸「言語」と「ボイス」から読み上げる音声を選ぶ

❹「テキスト」欄に文章を入力する

❺ [▶] をクリックする

文章を読み上げます。

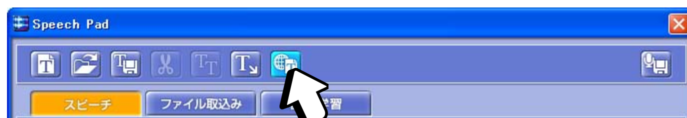
お知らせ

- 文字カーソルの位置から読み上げます。
- 手順❹のとき、[アイコン]をクリックすると、テキストファイルを開くこともできます。
- 「スピーチ」タブのテキストを音声ファイルに変換することもできます。（☞ 54 ページ「文章を音声ファイルに変換する」）
- 「スピーチ」タブに表示されるサンプル文書は、表示／非表示の切り替えができます。（☞ 64 ページ「オプションの設定」）
- 「スピーチ」タブに入力した文章は、テキストファイル (*.txt)、またはリッチテキストファイル (*.rtf) に保存できます。その場合は[アイコン]をクリックします。
- 音声合成エンジンは追加ができます。詳しい内容については、「Q&A（よくあるご質問）（☞ 75 ページ）」をご覧ください。
- [アイコン]をクリックすると、音声合成に関するサポートページが表示されます。

インターネットのホームページの内容を読み上げる

ホームページ上のニュース記事や論文などを取り込んで読み上げます。

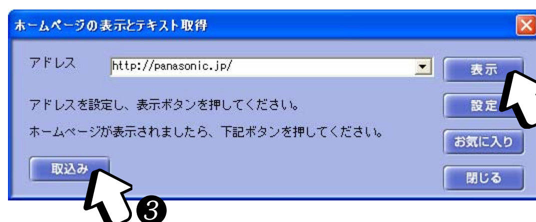
❶ をクリックする



「ホームページの表示とテキスト取得」画面が表示されます。

❷ 取り込みたいホームページの URL を「アドレス」欄に入力し、［表示］ボタンをクリックする

インターネットエクスプローラーが起動し、「アドレス」欄に入力した URL のページが表示されます。



❸ ［取込み］ボタンをクリックする

インターネットエクスプローラーに表示されている内容のテキストが「Speech Pad」に取り込まれます。

❹「Speech Pad」の をクリックする

取り込んだ内容を読み上げます。

お知らせ

- 「アドレス」欄に入力した URL は、Voice Editing に記憶されます。
  「アドレス」欄の をクリックすると、プルダウンリストから URL を選ぶこともできます。
- URL の並び順の変更や削除ができます。
  「ホームページの表示とテキスト取得」画面の［設定］ボタンをクリックすると「ホームページアドレスの管理」画面が表示されます。
  と を使って、URL の並び順の変更を行います。
  ［削除］ボタンをクリックすると、選んでいる URL が削除されます。



- 「ホームページの表示とテキスト取得」画面の［お気に入り］ボタンをクリックすると、インターネットエクスプローラーの「お気に入り」に登録している URL が表示されます。
- 音声ファイルに変換することもできます。（☞ 54 ページ「文章を音声ファイルに変換する」）
  変換した音声ファイルを IC レコーダーに転送（保存）すると、通勤、通学途中にホームページの内容が聞けます。

文章を音声ファイルに変換する

❶「Speech Pad」の「スピーチ」タブをクリックする

❷「言語」と「ボイス」から読み上げる音声を選ぶ

❸「テキスト」欄に文章を入力する

❹ をクリックする



〈音声ファイルの保存〉画面が表示されます。

- 音声ファイルを保存する場所を指定します。
  IC レコーダー、ドライブ、サブフォルダーの切り替えができます。
  また、［フォルダ作成］ボタンで、新規フォルダーの作成もできます。
- 音声ファイルのタイトルを入力します。
  「カナ表示」､「漢字表示」を入力します。
- 「圧縮形式」と「モード」を選びます。



❺［保存］ボタンをクリックする

音声ファイルに変換され、保存されます。
〈音声ファイルの保存〉画面で選んだドライブ、フォルダーに保存されます。

お知らせ

- 〈音声ファイルの保存〉画面を表示しているときには、IC レコーダーや、SD メモリーカードの抜き差しをしないでください。
- 手順❸のとき、 をクリックするとテキストファイルを開くこともできます。
- 変換した音声ファイルを IC レコーダーに転送（保存）すると、通勤、通学途中にその内容が聞けます。

複数の文書を音声ファイルに変換する

複数の文書を一括して音声ファイルに変換します。
未読メールやレポートを音声ファイルに変換し、IC レコーダーに転送（保存）すると、通勤、通学途中に文書内容の確認ができます。

お知らせ

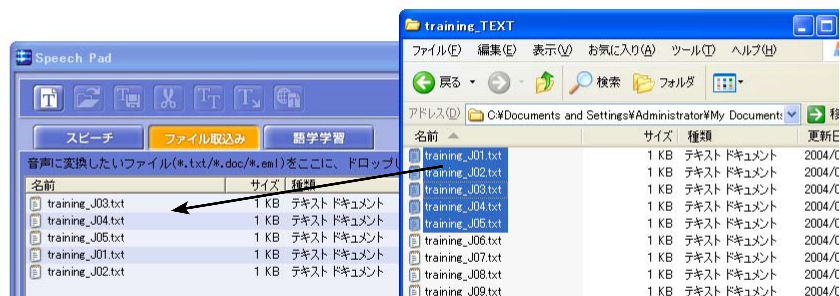
音声ファイルに変換できる文書ファイルのファイル形式は以下の通りです。
- テキストドキュメント (*.txt)
- Microsoft Word 文書 (*.doc)
- Outlook Express メールメッセージ (*.eml)
  ただし、HTML 形式のメールメッセージは変換できないことがあります。

❶「Speech Pad」の［ファイル取り込み］タブをクリックする



❷「言語」と「ボイス」から読み上げる音声を選ぶ

❸ Windows エクスプローラなどで音声ファイルに変換する文書ファイルを選び、「Speech Pad」にドラッグ＆ドロップする



次ページへ続く

もくじへ

❹ 音声ファイルに保存する文書ファイルを選び、をクリックする

（☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）



〈音声ファイルの保存〉画面が表示されます。

- 音声ファイルを保存する場所を指定します。
  IC レコーダー、ドライブ、サブフォルダーの切り替えができます。
  また、［フォルダ作成］ボタンで、新規フォルダーの作成もできます。
- 「圧縮形式」と「モード」を選びます。
- 音声ファイルのタイトル名は、文書ファイル名になります。



❺［保存］ボタンをクリックする

〈音声ファイルの保存〉画面で選んだドライブ、フォルダーに保存されます。

お知らせ

- 〈音声ファイルの保存〉画面を表示しているときには、IC レコーダーや、SD メモリーカードの抜き差しをしないでください。
- 文書ファイルを選び、右クリックで表示されるメニューから［選択の切り替え］を選ぶと、文書ファイルの選択状態が反転します。
- 文書ファイルを選んでをクリックすると、文書ファイルを読み上げます。
  複数の文書ファイルを選んでいる場合、をクリックすると、次のファイルを読み上げます。
- 文書ファイルの内容を「スピーチ」タブで確認できます。
  文書ファイルを右クリックして［スピーチタブに展開］を選ぶと、「スピーチ」タブに内容が表示されます。
  複数の文書ファイルを選んでいる場合、すべての文書ファイルの内容が順番に「スピーチ」タブで表示されます。
- 「ファイル取り込み一覧」のリストから文書ファイルを解除したい場合、文書ファイルを右クリックし、［ファイルの削除］を選びます。ファイル本体は削除されません。

もくじへ

外国語を学習する（音声合成）

音声合成機能を利用して、ヒアリング練習のファイルを作成します。

お知らせ

「語学学習」タブでは、読み上げる言語として「日本語」と「中国語」は選択できません。

❶「Speech Pad」の「語学学習」タブをクリックする



❷「言語」と「ボイス」から読み上げるテキストの音声を選ぶ

❸読み上げる文章とそのタイトル名を入力する

読み上げる文章を左側の「読み上げる Text」欄に入力します。
右側の「Text のタイトル名」欄に読み上げる文章内容を示す音声ファイルのタイトルを入力します。
たとえば、左側に読み上げる外国語を入力し、右側に内容を示す母国語を入力します。



❹ をクリックする

〈音声ファイルの保存〉画面が表示されます。

- 音声ファイルを保存する場所を指定します。
  ドライブ、フォルダー、IC レコーダーの切り替えができます。
  また、［フォルダ作成］ボタンで、新規フォルダーの作成もできます。
- 「圧縮形式」と「モード」を選びます。
- 音声ファイルのタイトルは、入力した文字列になります。



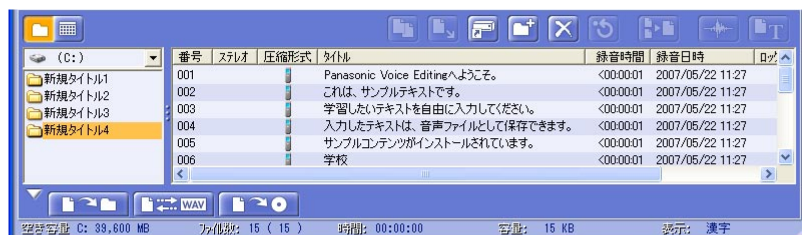
お知らせ

〈音声ファイルの保存〉画面を表示しているときには、IC レコーダーや、SD メモリーカードの抜き差しをしないでください。

次ページへ続く ▶

❺〈音声ファイルの保存〉画面の［保存］ボタンをクリックする

1 項目ずつ個別の音声ファイルに変換されて保存されます。
「Text のタイトル名」欄に入力したタイトルは、漢字表示側の「タイトル」欄に表示されます。



❻ 保存した音声ファイルを再生する

「読み上げる Text」欄に入力した文章が再生されます。
IC レコーダーに転送（保存）すると、いつでもヒアリングの練習ができます。

お知らせ

- 「表示」メニューから [カナ表示] を選ぶと、再生する内容が「タイトル」欄に表示されます。



- 1 ページにつき 5 項目の語学学習用音声ファイルの作成ができます。
  1 つの plf ファイルにつき最大 20 ページまで作成できます。
  ▼と▲で、ページの切り替えができます。
- 手順❸のとき、▶をクリックすると、「読み上げる TEXT」に入力した文章を連続して再生します。
- 「語学学習」タブに入力したテキストは保存できます。
  をクリックすると、plf ファイル（*.plf）として入力したテキストの保存ができます。
  plf ファイルをダブルクリックすると、Voice Editing が起動します。ただし、表示言語と文字コードが一致しないと起動しません。
- 「語学学習」タブに表示されるデフォルトサンプルは、表示／非表示の切り替えができます。（☞ 64 ページ「オプションの設定」）
- plf ファイルのサンプルを用意してあります。詳しい内容については、「付録（☞ 82 ページ）」をご覧ください。
- 「タイトル」欄に表示される文字数については、「タイトルの表示（☞ 35 ページ）」をご覧ください。

録音する

再生した音声を音声ファイルとして録音ができます。
たとえば、語学教材の CD を録音し、IC レコーダーへ転送（保存）すると、いつでもヒアリングの練習ができます。

お 願 い

Simple Recorder 機能を使って、語学教材 CD など著作権を有するコンテンツから音声を録音する場合は、個人として使用する他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。録音したファイルは、個人の使用の範囲内でご使用ください。

❶ をクリックする

確認画面が表示されます。



❷ 確認画面の内容を確かめ、[はい] ボタンをクリックします

「Simple Recorder」が起動します。
同時に「操作手順」画面が表示されます。



❸ をクリックする

「録音コントロール」画面が表示されます。
再生する音源を選び、音量を調節します。
たとえば、語学教材の CD を録音する場合、「ステレオミキサー」を選びます。



❹ 録音する

音源を再生し、「Simple Recorder」の をクリックします。
 に変わり、録音が始まります。
 をクリックすると、録音が終了します。
音源の再生を終了します。

次ページへ続く ▶

❺ 録音した音声ファイルを保存する

「Simple Recorder」の をクリックします。
〈音声ファイルの保存〉画面が表示されます。

- 音声ファイルを保存する場所を指定します。
  ドライブ、サブフォルダー、IC レコーダーの切り替えができます。
  また、[フォルダ作成] ボタンで、新規フォルダーの作成もできます。
- 音声ファイルのタイトルを入力します。
  「カナ表示」、「漢字表示」を入力します。
- 「圧縮形式」と「モード」を選びます。

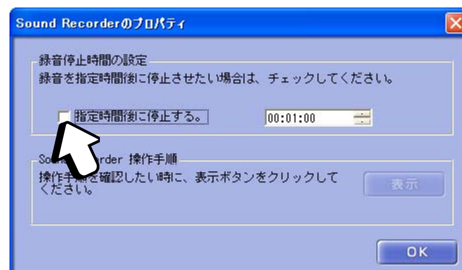


❻ [保存] ボタンをクリックする

音声ファイルに変換され、保存されます。

お知らせ

- 手順❸のとき、再生する音源に応じて「録音コントロール」画面で音源を切り替えます。
- 録音時間は、最大 2 時間までです。
  ハードディスクの空き容量によっては、2 時間の録音ができない場合もあります。
- 指定した時間が経てば、自動的に録音を停止することもできます。
  「Simple Recorder」の をクリックすると、「Simple Recorder のプロパティ」画面が表示されます。「指定時間後に停止する」にチェックマークを付け、自動的に停止させる時間を指定します。



表示設定

画面の幅を変更する



❶ **ポインターを変更したい境界線上に移動する**

「◀━▶」マークに切り替わります。

❷ **任意の幅にドラッグする**

お知らせ

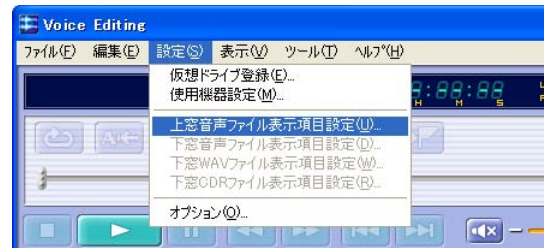
- カレンダー表示部の横幅は変更できません。
- 音声ファイル一覧の項目の幅を縮めると非表示にできます。
  再表示については、「表示項目設定（☞ 次項）」を参照してください。
- 音声ファイル一覧の項目をドラッグすると、位置の移動ができます。

表示項目設定

音声ファイル一覧に表示される項目の変更ができます。一覧ごとに表示する項目の設定ができます。

❶ **［設定］メニューから［上窓音声ファイル表示項目設定］を選ぶ**

〈上窓音声ファイル表示項目設定〉画面が表示されます。



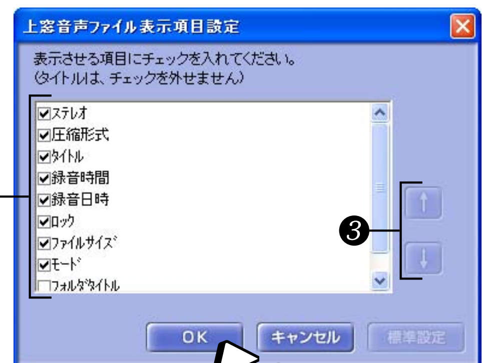
❷ **表示する項目に「✔」を入れる**

「タイトル」の「✔」は外せません。

❸ **表示する項目を反転表示させ［↑］、［↓］で順番を変える**

❹ **［OK］をクリックする**

表示項目が変更されます。



お知らせ

- 右クリックで表示されるメニューから［表示項目設定］を選ぶこともできます。
- 〈表示項目設定〉画面の［標準設定］ボタンをクリックすると初期状態に戻ります。
- 上ウィンドウ、下ウィンドウ、WAV 変換ウィンドウ別に表示項目の設定ができます。
- 音声ファイル一覧の項目をドラッグしても、項目位置の移動や非表示にすることもできます。
- 「Mobile Edition」では、項目の「ステレオ」が表示されません。

表示言語を切り替える

Voice Editing を起動したまま、表示言語の切り替えができます。



❶「表示」メニューから［表示言語］を選ぶ

切り替えられる言語が表示されます。

❷ 切り替えたい言語を選ぶ

確認の画面が表示されます。

❸［はい］ボタンをクリックする

表示言語が切り替わり、再度確認の画面が表示されます。

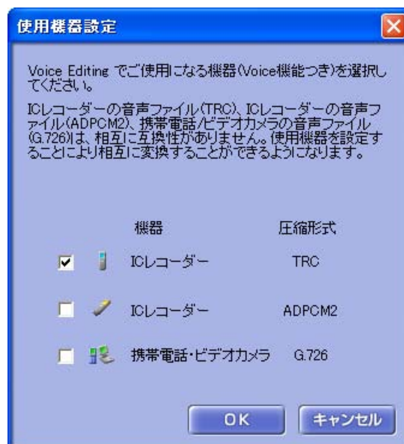
❹ OK をクリックする

表示言語が切り替わります。
［元に戻す］ボタンをクリックすると元の表示言語に戻ります。

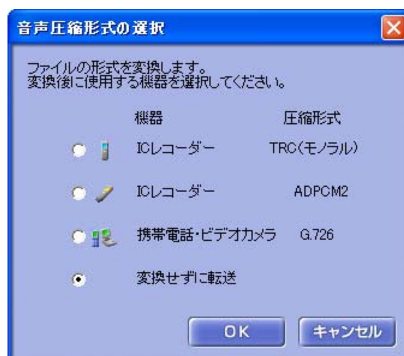
使用機器の選択

IC レコーダーの音声ファイルの TRC 圧縮形式と ADPCM2 圧縮形式、携帯電話 / ビデオカメラの音声ファイルの G.726 圧縮形式の 3 種類の圧縮形式には相互に互換性がありません。使用機器を設定することにより相互に変換できるようになります。

「設定」メニューから［使用機器設定］を選ぶと、〈使用機器設定〉画面が表示されます。
使用する機器（圧縮形式）にチェックマークを付けます。



音声ファイルを転送（保存）するとき、複数の機器（圧縮形式）を選んでいる場合には、〈音声圧縮形式の選択〉画面が表示されます。



お知らせ

Mobile Edition をお使いの場合、〈使用機器設定〉画面、〈音声圧縮形式の選択〉画面で「TRC」の圧縮形式は選べません。

オプションの設定

各機能で共通する設定を行います。
「設定」メニューから［オプション］を選ぶと、「オプション」画面が表示されます。
「オプション」画面では、以下の設定が行えます。



Ⓐ 一時領域の指定

音声認識や CD-R/RW にファイルを書き込むとき、一時ファイルを作成します。一時ファイルを作成するドライブ、フォルダの指定ができます。

Ⓑ 音声認識の設定

音声認識ユーザーを作成します。（☞ 45 ページ「音声を文字に変換する」）

Ⓒ 音声合成の設定

チェックマークが付いていると、「Speech Pad」の［スピーチ］タブと［語学学習］タブを表示したときにサンプル文書を表示します。

オートアップデート

最新のシステムにアップデートできます。

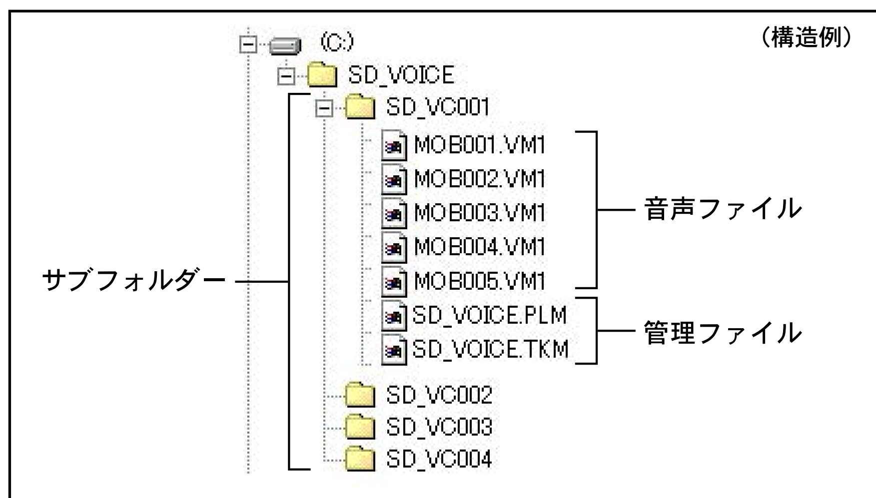
「ヘルプ」メニューから［アップデート］を選ぶ

以降、画面の指示に従って操作してください。

SD_VOICE フォルダーと音声ファイル

フォルダー構造

パソコンのハードディスク上では、初期設定で以下のようなフォルダー構造になっています。



お知らせ

- サブフォルダー、音声ファイル、管理ファイルをエクスプローラー上で操作しないでください。音声ファイルが壊れ、Voice Editing Ver.1.0 が正常に動作しなくなります。
- これらのフォルダーおよびファイルはすべて隠しファイルの属性設定になっています。
- 音声ファイルを外部記憶装置にバックアップする場合、「SD_VOICE」フォルダーごとコピーしてください。

ファイル数

G.726 形式の音声ファイル（携帯電話、ビデオカメラで録音される音声データ）の場合、8 分 24 秒ごとに分割されて保存されるため、8 分 24 秒を越える音声ファイルがある場合は 1 フォルダーあたりの保存できるファイル数が 999 個より少なくなります。

（例）

G.726 録音時間	音声ファイル数	構成ファイル数
5 分	1 個	1 個（5 分× 1 個）
10 分	1 個	2 個（8 分 24 秒× 1 個＋ 1 分 36 秒× 1 個）
20 分	1 個	3 個（8 分 24 秒× 2 個＋ 3 分 12 秒× 1 個）
合　計	3 個	6 個



お知らせ

TRC と ADPCM2（IC レコーダーで録音される音声データ）は、音声ファイル数と構成ファイル数は同一です。

音声ファイルのバックアップ

Windows XP をお使いの場合

Windows XP で Voice Editing をお使いの場合、Windows XP の CD-R 書き込み機能を使って、音声ファイルを CD-R/RW へバックアップできます。

お知らせ

- この機能では、パケットライトソフト的な使い方はできません。
  パケットライトソフトでフォーマットされた CD-R/RW は、[ボタン] でのバックアップに使えません。
  詳しくは、パケットライトソフトに付属の取扱説明書をご覧ください。
- Windows XP 以外の OS でお使いの場合、「Windows 98SE/Me/2000 をお使いの場合（☞ 68 ページ）」をご覧ください。

音声ファイルを CD-R/RW に書き込む

1 CD-R/RW をパソコンにセットします

2 [ボタン] をクリックする

確認のダイアログが表示されます。

3「メッセージの表示方法」を選び、［はい］をクリックする

CD-R ウィンドウが表示されます。

4 バックアップしたい音声ファイルを下の CD-R ウィンドウに転送（保存）する

書き込み準備ができた音声ファイルには、圧縮形式を表すアイコンに書き込み準備マーク が付きます。



書き込み済みの音声ファイル

お知らせ

ステータスバーで容量の確認ができます。
CD-R/RW の記録可能容量を超えないようにしてください。

5 [ボタン] をクリックする

「CD 書き込みウィザード」が起動します。
画面の指示に従って操作を行ってください。

次ページへ続く ▶

CD-R/RW の音声ファイルを再生する

❶ CD-R/RW を CD ドライブにセットする

❷ ドライブボックスのプルダウンリストから CD-R/RW のドライブを選ぶ



❸ 音声ファイルを選び、［▶］をクリックする

CD-R/RW 内の音声ファイルが再生できます。

お知らせ

- CD-R/RW 内の音声ファイルには、以下の制限があります。
  並べ替えはできません。
  音声ファイルの削除はできません。
  音声ファイルの編集はできません。
- CD-R/RW 内の音声ファイルは、Voice Editing で再生できますが、CD-R/RW 単独では再生できません。
  CD-R/RW 単独で再生するためには、「Q&A（よくあるご質問）（☞ 73 ページ）」をご覧ください。

音声ファイルのバックアップ

Windows 98SE/Me/2000 をお使いの場合

音声ファイルを CD-R/RW に書き込む

CD-R 書き込みソフトウェアを使って、音声ファイルを CD-R/RW にバックアップする場合、以下の手順で操作をしてください。
以下の手順でバックアップを行うと、CD-R/RW 内の音声ファイルの再生ができます。

❶ バックアップ用の仮想ドライブを作成する

たとえば「BACKUP」フォルダーを作成し、仮想ドライブ名を「保存データ」とします。



❷ バックアップ用の仮想ドライブにバックアップしたい音声ファイルを転送（保存）する

ドライブボックスのプルダウンリストから、手順❶で作成した仮想ドライブを選び、バックアップしたい音声ファイルを転送（保存）します。



お知らせ

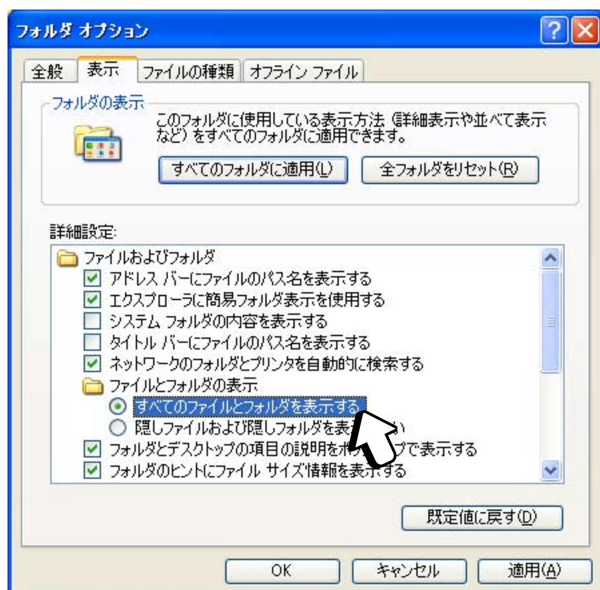
ステータスバーで容量の確認ができます。
CD-R/RW の記録可能容量を超えないようにしてください。

次ページへ続く ▶

もくじへ

❸ 仮想ドライブと音声ファイルをエクスプローラーで確認する

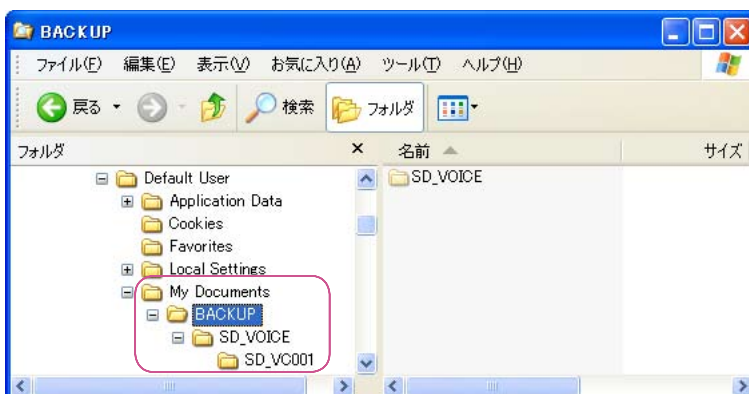
エクスプローラーの「ツール」メニューから［フォルダオプション］を選びます。
［表示］タブをクリックし､「ファイルとフォルダの表示」の「すべてのファイルとフォルダを表示する」をクリックします。



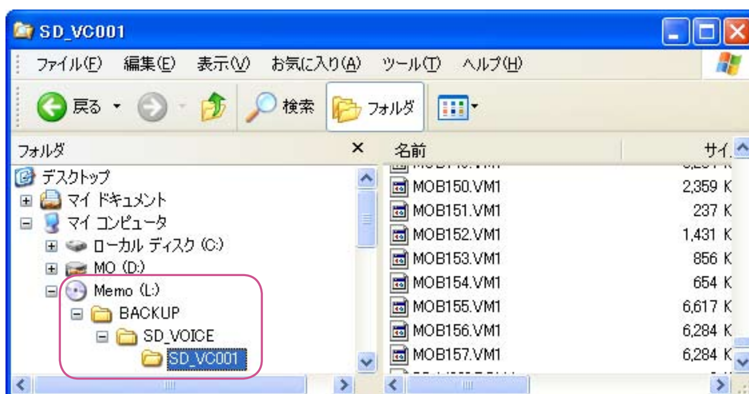
［適用］をクリックし、［OK］をクリックします。
仮想ドライブがエクスプローラー上で確認できます。

❹ CD-R 書き込みソフトウェアを使用し、CD-R/RW へ仮想ドライブに指定したフォルダーを書き込む

手順❶で指定した仮想ドライブのフォルダー下を CD-R/RW に書き込みます。



CD-R/RW に書き込むと、この様なファイル構成になります。



お知らせ

CD-R 書き込みソフトウェアの操作については、CD-R 書き込みソフトウェアに付属の取扱説明書をご覧ください。

次ページへ続く

CD-R/RW の音声ファイルを再生する

❶ CD-R/RW を CD ドライブにセットし、CD-R/RW 用の仮想ドライブを作成する

たとえば、仮想ドライブ名を「CD-R」とし、CD-R/RW 内の「BACKUP」フォルダーを指定します。



❷ ドライブボックスのプルダウンリストから CD-R/RW 用の仮想ドライブを選ぶ



CD-R/RW 内の音声ファイルが音声ファイル一覧に表示されます。
音声ファイルを再生することもできます。

お知らせ

- CD-R/RW 内の音声ファイルには、以下の制限があります。
  - 並べ替えはできません。
  - 音声ファイルの削除はできません。
  - 音声ファイルの編集はできません。
- CD-R/RW 内の音声ファイルは、Voice Editing で再生できますが、CD-R/RW 単独では再生できません。
  CD-R/RW 単独で再生するためには、「Q&A（よくあるご質問）（☞ 73 ページ）」をご覧ください。

IC レコーダーの初期化

Voice Editing を使って、IC レコーダーの初期化ができます。

お願い

- IC レコーダーを初期化すると、ロックされている音声ファイルも消去されます。
- 必要な音声ファイルか確認してから、IC レコーダーを初期化してください。

❶ IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続する

❷ ドライブボックスのプルダウンリストから、IC レコーダーを選ぶ



❸「ファイル」メニューから［IC レコーダー初期化］を選ぶ

確認の画面が表示されます。



❹［はい］ボタンをクリックする

IC レコーダーの初期化が始まり、音声ファイルがすべて消去されます。

アンインストールする

❶「スタート」メニューから、「コントロールパネル」を選ぶ

❷「プログラムの追加と削除」をダブルクリックする

〈プログラムの追加と削除〉画面が表示されます。



❸［プログラムの変更と削除］をクリックする

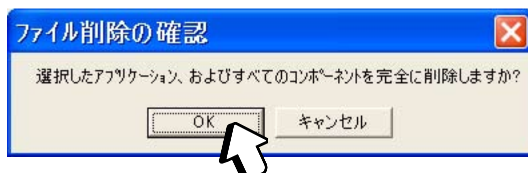
❹［Voice Editing］をクリックし、［変更と削除］をクリックする

〈設定言語の選択〉画面が表示されます。



❺［OK］をクリックする

〈ファイル削除の確認〉画面が表示されます。



❻［OK］をクリックする

Voice Editing が削除されます。

お知らせ

- パソコン内の音声ファイルは、アンインストールを行っても削除されません。
- このソフトウェアを一度インストールしたあと、別のドライブまたはフォルダーに移動させる場合は、アンインストールしてから再度インストールを行ってください。
- Voice Editing Ver.1.0 をアンインストールすると、音声認識エンジン、音声合成エンジンも同時にアンインストールされます。
- アップグレードユーザー（優待販売）の場合、再インストールは、Voice Studio Ver.2.0 をインストールした後、Voice Editing Ver.1.0 をインストールしてください。Voice Editing Ver.1.0 のみでのインストールはできません。

Q&A（よくあるご質問）

質問（Q）	回答（A）
Macintosh で使用できますか。	現在のところ対応の予定はありません。
このソフトウェアを、アンインストールや再インストールした場合、保存したデータは残りますか。	残ります。ただし、安全の為バックアップしておく事をお勧めします。
パソコンに保存したファイルがみつかりませんが、どこに保存されているのですか。	隠しファイルの設定になっています。ドライブのルートに「SD_VOICE」という隠しフォルダーが作られ、その中に保存されています。隠しファイル、隠しフォルダーの属性設定については Windows の取扱説明書をご覧ください。 お知らせ ファイル単体での保存はできません。
MP3 は、再生できますか。	対応していません。
音声ファイルを、人に渡したいのですが。	音声ファイルを渡したい相手が、Voice Editing Ver.1.0 をお持ちの場合、「メール転送形式に変換」機能を使って、VM1 のファイル「＊ .pvc」を作成してお渡しください。 お持ちでない場合は、VM1 のファイル「＊ .pvc」と Voice Editing Mini Player「VEd1_VM1_Player.exe」を作成してお渡しください。 （☞ 40 ページ）
送信した VM1 のファイル「＊ .pvc」が相手先で再生できません。	Voice Editing Ver.1.0 で作成した VM1 のファイル「＊ .pvc」は、以前のバージョンでは再生できません。 Voice Editing Mini Player を相手先に送付してください。 （☞ 41 ページ）
IC レコーダーの音声ファイルを WAVE 形式のファイルに変換する利点はありますか。	WAVE 形式ファイルは、通常どのパソコンでも再生ができます。 音声ファイルを WAVE 形式ファイルに変換し、CD-R 書き込みソフトウェアを用いて音楽 CD を作成すれば、一般的な CD 付きオーディオ機器での再生ができるようになります。 ただし、CD-R 書き込みソフトウェアが 22 ページに記載されている WAVE 形式をサポートしている必要があります。 お知らせ CD-R 書き込みソフトウェアの操作については、CD-R 書き込みソフトウェアの取扱説明書をごらんください。
WAVE 形式ファイルに、どうやって変換するのですか。	Voice Editing の変換機能を使ってください。 詳しい操作方法については「VM1 → WAVE 形式に変換」（☞ 21 ページ）を参照してください。
Voice Editing で管理しているサブフォルダーはいくつまで作れますか。	パソコンのハードディスク等、書き換え可能なドライブには、1 ドライブ当たり、999 個まで作成できます。（☞ 6, 7 ページ）
ひとつのサブフォルダーに、音声ファイルは最大いくつ保存できますか。	１つのサブフォルダーには、最大 999 個のファイルを保存する事ができます。（☞ 6, 7 ページ）

次ページへ続く

Q&A（よくあるご質問）

質問（Q）	回答（A）
Voice Editing で、メディア（SD メモリーカードやリムーバブルメディアなど）上のファイルを表示させている時、メディアを交換しても問題ないでしょうか。	Voice Editing で音声ファイルを表示させている時にメディアを交換した場合は必ず、「表示」メニューで［最新の情報に更新］を選ぶか、または［F5］キーを押して、情報を更新させてください。 **お知らせ** 再生・転送・変換などでメディア上の音声ファイルをアクセスしている最中にメディアを抜き取ると、音声ファイルが壊れることがあります。操作中は抜き取らないでください。
IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続すると、OS のハードウエアウイザードが現れました。 どうすれば、良いですか。	ドライバーがインストールされていないためです。ハードウエアウイザードをキャンセルし、いったん、USB プラグを抜き取ってから、Voice Editing の CD-ROM をインストールしてください。 Voice Editing のインストールと共に、ドライバーもインストールされます。 インストールが完了しましたら、OS を再起動して、USB プラグを接続してください。 **お知らせ** 付属の CD-ROM には、ルートに driver フォルダーがあります。これを用いて、手動でドライバーをインストールすることも可能です。
SD メモリーカードに転送した音声ファイルが再生できません。	音声ファイルの圧縮形式、TRC、ADPCM2、G.726 は、それぞれ互換性がありません。 使用機器に合わせた圧縮形式に変換してください。 （☞ 63 ページ）。
Voice Editing で再生できる音声ファイルが入っている SD メモリーカードを、SD メモリーカードスロット付き IC レコーダーに差し込んでも再生されない音声ファイルがあります。	SD メモリーカード付き IC レコーダーは、65 ページに記載しているファイル構造の MOB001.VM1 ～ MOB099.VM1 のみが再生できます。 MOB のファイル番号が、100 番以上の音声ファイルは、SD メモリーカード付き IC レコーダーでは再生できません。この場合、再生できない音声ファイルを別のサブフォルダー（SD_VC001 ～ SD_ VC009）に転送してください。
Voice Editing では、他のメーカーのボイスレコーダーで録音した音声ファイルを再生できますか。	Voice Editing で、再生できない音声ファイルは、音声ファイル一覧の「圧縮形式」欄に?が表示されます。?が表示された音声ファイルはサポートしていません。
Voice Editing Ver.1.0 に対応している機種名を教えてください。	DoCoMo：P252i、P252is、P253i、P505is、P506ic D-Snap：SV-AV10、SV-AV30/AS3、SV-AV35、SV-AV50 IC レコーダー：RR-XR330、RR-US520/620、RR-US530/630、RR-US007/009、RR-US050/070/090 （2004 年 12 月現在）
IC レコーダー RR-XR320/330、RR-US520/620、RR-US007/009、RR-US530/630 を持っています。これらの IC レコーダーに付属のソフトウェアとの互換性はありますか。	上位互換です。 Voice Editing Ver.1.0 は、左記のソフトウェアの上位バージョンに当ります。

次ページへ続く

質問（Q）	回答（A）
IC レコーダーの音声ファイルを直接再生するとき、操作できないボタンがありますが。	機能しないボタンは非アクティブ（グレー表示）になっています。
録音した音声ファイルを音声認識ソフトでテキストに変換する時、最も良い認識結果を得るにはどうすれば良いですか。	• 認識率の高い文字変換を行うには、音声認識させたい人の声を登録する「トレーニング」が必要です。（☞ 45 ページ） • 「トレーニング」を繰り返すと、認識精度が上がります。本ソフトウェアは、追加トレーニングを行う文章を用意しています。（☞ 79 ページ） お知らせ トレーニング時、マイクウィザードでマイクのボリュームを適切に設定してください。 • 追加「トレーニング」を実施しても、正しく認識されない単語がある場合、「単語の追加と削除」機能（☞ 51 ページ）を使用し、辞書に音声を登録してください。辞書に音声が登録されると、登録した単語が正しくテキストに変換されるようになります。 • IC レコーダーの会議 / メモ切り替えスイッチを「メモ」ポジションにしてお使いください。 • 音声認識の精度には個人差があります。はっきりとした口調で急がないで話してください。また、静かな環境で話してください。 お知らせ 同時会話のように話者の特定ができない会議録音や、雑音の入った会話録音での音声認識はできません。
ステレオ録音した音声ファイルの音声認識結果が良くないのですが。	ステレオ録音した音声ファイルは、話者の音声だけでなく、周囲の音声も同時に録音されるため、良い音声認識結果を得ることができません。 IC レコーダーに録音する時、会議／メモ切り替えスイッチを、「メモ」ポジションにしてお使いください。「メモ」ポジションにして録音すると、音声認識に適した録音（モノラル録音）が行われます。

次ページへ続く ▶

もくじへ

Q&A（よくあるご質問）

質問（Q）	回答（A）
どのような音声認識エンジンが使えますか？	マイクロソフト社の SAPI5 に対応している音声認識エンジンが使えます。
どのような音声合成エンジンが使えますか？	マイクロソフト社の SAPI5 に対応している音声合成エンジンが使えます。
付属の「音声・テキスト変換専用コード」を用いても、マイクの感度が悪く、トレーニングやディクテーションができないのですが。	IC レコーダーの音量を調節してみてください。 また、パソコンの種類によっては、ストレートミニプラグと L 型ミニプラグを逆に差し替えることで、感度がよくなることもあります。
「Speech Pad」の「スピーチ」タブで入力した文章をリッチテキストファイルで保存しましたが、欧州言語の特殊な文字が表示されないのですが？	Windows 98SE、Windows Me で Voice Editing をお使いの場合、OS の制限で、欧州言語の特殊な文字の表示ができません。
「ホームページの表示とテキスト取得」画面で「Speech Pad」にホームページを取り込みましたが、欧州言語の特殊な文字が表示さません？	OS の制限で、欧州言語の特殊な文字の表示ができません。 ホームページから文字をコピーし、「Speech Pad」に貼り付けてください。

■ **サポートページもご覧ください**

最新のサポート情報が掲載されています。
［ヘルプ］メニューから［松下電器サポートページ］を選ぶ

故障かな !? と思ったら

症　状	原因・対策
インストールできない	• ハードディスクの空き容量が少ない可能性があります。 →容量を確認してください。
音声ファイルが 再生できない	• サウンドボードがついていない（☞ 4 ページ）。 • パソコンにスピーカーが内蔵または接続されていない。 • DirectX がインストールされていない。
再生音量が小さい	• パソコン側で音量を上げてみてください。（詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください）
音声ファイルの 保存・追加・削除中に 画面が動かなくなる	• 録音時間の長い音声ファイルや大量の音声ファイルを保存、追加、削除に時間がかかります。 →保存、追加、削除が終了するまでお待ちください。 通常の操作ができるようになります。
音声ファイルが 編集できない	• ロックされた音声ファイルは編集ができません。 →ロックを解除してください。（☞ 29 ページ）
メールに添付された「VEd1_VM1_Player.exe」が受け取れない	• 電子メールソフトによっては、「＊ .exe」や「＊ .bat」の送付を制限している場合があります。 • 相手先への送付前に「＊ .exe」の拡張子「.exe」を一旦消して送付してください。相手先で「.exe」を手入力で付加した後、ダブルクリックで実行してください。拡張子を非表示にしているときは、表示の設定を変更してください。設定方法は Windows の取扱説明書をご覧ください。
音声ファイルの変換時にサブフォルダーや音声ファイル一覧が正しく表示されない	• Internet Explorer5.0 以前のバージョンをお使いの場合、表示が乱れることがあります。Internet Explorer をアップデートしてください。
Windows で「タスクバーを自動的に隠す」設定にしている時、タスクバーが表示されない	• 「タスクバーを自動的に隠す」設定をしている時に Voice Editing を最大化表示で使用すると、タスクバーが表示できなくなる場合があります。 右上端の［表示切替ボタン］（表示切替ボタン）を押して最大化を解除してご使用ください。

本ソフトウェアに関するお問い合わせ先

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル／パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話　フリーダイヤル 0120-878-365（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… 06-6907-1187

FAX　フリーダイヤル 0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256 - 5444　**Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

ホームページもご覧ください。

- IC レコーダー本体について
  http://panasonic.jp/support/audio/
- Voice Editing について
  http://panasonic.jp/support/software/

■ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

松下電器産業株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

別売品

（2004 年 12 月現在）

■ USB リーダーライター

BN-SDCGP3

■ SD メモリーカード用 PC カードアダプター

BN-SDAGP3

音声認識エンジンのトレーニング

本ソフトウェアに付属している音声認識エンジン（マイクロソフト株式会社製）は、日本語、英語、中国語の 3 種類です。
それぞれの音声認識エンジンには、トレーニングのセッションが用意されています。
各セッションの数は以下の通りです。

日本語

■ **Microsoft Japanese v5.1 Recognizer**

セッション名	ステップ数
イントロ	28
エッセイ：ジャズバー、母校、その他	36
エッセイ：映画鑑賞、アロマセラピー、その他	28
シェークスピアフェスティバル	22
ビルゲーツ：未来を語る	43
音声技術の紹介	21
家族	24

英語

■ **Microsoft English v5.1 Recognizer**

セッション名	ステップ数
Aesop's Fables	32
Bill Gates describes - The Road Ahead, Second Version	14
Excerpts from - The Problems of Philosophy by Bertrand Russell	42
Excerpts from "The Fall of the House of Usher" by Edgar Allan poe	34
Excerpts from SUMMER. by Edith Wharton	28
Excerpts from The War of the Worlds by H. G. Wells	30
Introduction to Microsoft Speech Recognition	17
The Wonderful Wizard of Oz - by L. Frank Baum	27

次ページへ続く

中国語

■ Microsoft Simplified Chinese Recognizer v5.1

セッション名	ステップ数
附加训练文本 (I)	18
附加训练文本 (II)	22
微软语音识别系统简介	102

お知らせ

日本語版、英語版、中国語版の Microsoft Office 2003 をインストールしている場合、Office 2003 に搭載されている音声認識エンジンが使えます。
詳しい内容については、Office 2003 の取扱説明書をご覧ください。

音声合成エンジン

本ソフトウェアに付属している音声合成エンジン（ScanSoft 社製 RealSpeak Solo Ver,4.0 ）は、以下の 7 種類です。

言語	ボイス
日本語	ScanSoft Kyoko_Full_22kHz
英語	ScanSoft Jennifer_Full_22kHz
フランス語	ScanSoft Virginie_Full_22kHz
ドイツ語	ScanSoft Steffi_Full_22kHz
イタリア語	ScanSoft Bianca_Full_22kHz
スペイン語	Scansoft Isabel_Full_22kHz
中国語	ScanSoft Mei-Ling_Full_22kHz

お知らせ

音声合成エンジンは、ScanSoft 社の RealSpeak Solo です。

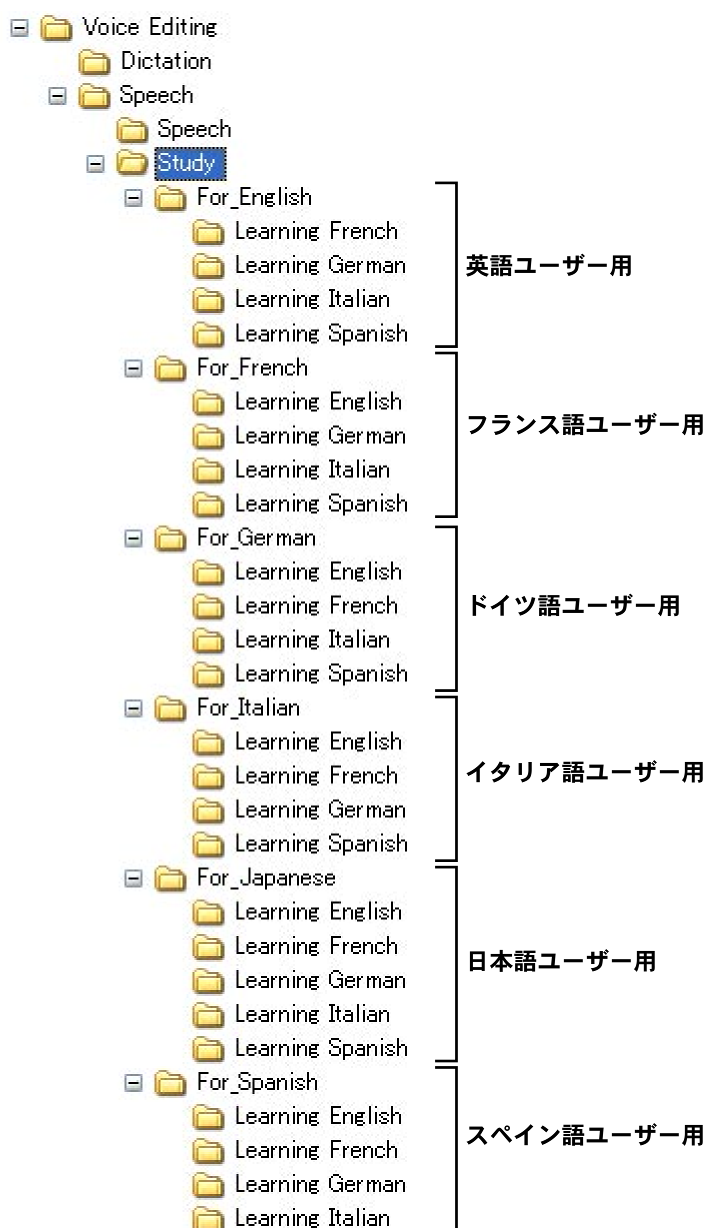




語学学習のサンプル

「Speech Pad」の「語学学習」タブで利用できる語学学習用のサンプルを、下記の場所に用意しています。

¥My Documents¥Voice Editing¥Speech¥study



「ドラゴンスピーチ・セレクト」で音声認識を行う

Voice Editing Ver.1.0 をインストールすると、VM1 形式の音声ファイルを使った「ドラゴンスピーチ・セレクト」での音声認識の連携ができなくなります。
「ドラゴンスピーチ・セレクト」で音声認識を行う場合、WAVE 形式ファイルに変換してください。

お知らせ
HQ モードの音声ファイルをご使用ください。FQ、SP、LP モードの音声ファイルは変換できません。

Voice Editing での準備

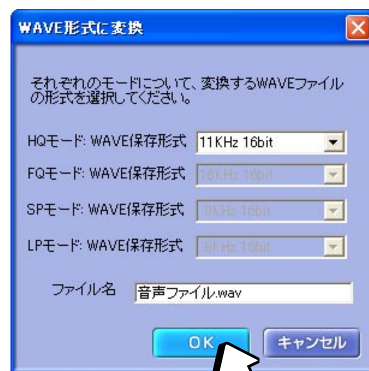
音声ファイルを WAVE 形式ファイルに変換します。

❶ [WAV] をクリックし、WAVE 形式ファイルを保存するドライブ・フォルダを選ぶ

❷ 音声認識を行いたい音声ファイルを選び、[↓] をクリックする
〈WAVE 形式に変換〉画面が表示されます。

❸ HQ モードの「11kHz/16bit」を選び、ファイル名を入力する

❹ [OK] ボタンをクリックする
下のウィンドウに変換・転送した WAVE 形式の音声ファイルが表示されます。



次ページへ続く

「ドラゴンスピーチ・セレクト」での操作

お知らせ

以下の手順は、「ドラゴンスピーチ・セレクト 7」での操作です。

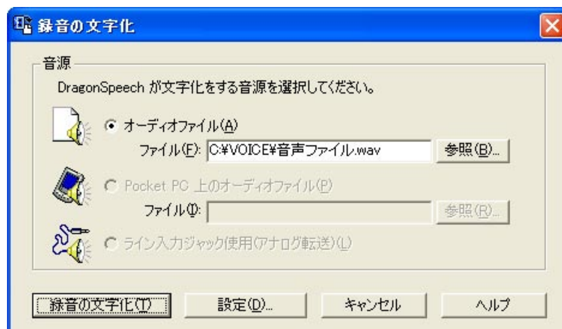
❶「ドラゴンスピーチ・セレクト」を起動する

❷［音声］メニューから［録音を文字化する］を選ぶ

〈録音の文字化〉画面が表示されます。

❸ WAVE 形式ファイルを選ぶ

［オーディオファイル］の［参照］をクリックし、〈ファイルを開く〉画面で WAVE 形式ファイルを選びます。



❹［録音の文字化］をクリックする

音声ファイルが文字に変換されます。

- 本製品、およびパソコンの不具合により、録音ができない場合や音声データが破損した場合などのデータの補償についてはご容赦ください。
- 本製品、および本書の内容に関しましては、事前に予告なしに変更することがあります。
- 本書では、OS が Windows XP のときに表示される操作画面例を使用しています。また、本書のイラストや画面は一部実際と異なる場合があります。

- Microsoft とそのロゴ、Windows、Windows NT および DirectX は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- IBM および PC/AT は 米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。
- Intel、Pentium および Celeron は Intel Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh は米国 Apple Computer, Inc. の商標です。
- ScanSoft, ScanSoft のロゴ、RealSpeak Solo、Dragon NaturallySpeaking、DragonSpeech は、ScanSoft, Inc の、または、米国および他国の系列会社の商標または登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat、および Acrobat Reader は、アドビシステムズ社の米国および／または各国での商標または登録商標です。
- その他、本文で記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。なお、本文中では、™、® マークは、一部明記していません。

松下電器産業株式会社
ネットワーク事業グループ
〒 571-8504　大阪府門真市松生町 1 番 15 号

© 2005 Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.（松下電器産業株式会社）All Rights Reserved.

MSC0110AD_J_YA
M1104KH-1075